

# 2023年度第1四半期決算の概要

(2023年4月1日～2023年6月30日)

2023年7月28日

**山陽特殊製鋼株式会社**  
<https://www.sanyo-steel.co.jp/>



「さんとくん」  
(当社キャラクター)

# 目次

## 1. 2023FY1Q決算の概況

損益の概要

事業環境

業績推移(四半期)、セグメント別損益、貸借対照表

経常利益の変化要因(2022FY1Q→2023FY1Q、2022FY4Q→2023FY1Q)

## 2. 業績予想等

2023FY業績予想

経常利益の変化要因(2022FY→2023FY今回予想、2023FY上期予想→2023FY下期予想、  
2023FY1Q→2023FY2Q予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

2023FY配当予想

## 3. トピックス

## 4. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

## 5. 参考資料

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

# 1. 2023FY1Q決算の概況

# 2023FY1Q損益の概要 (対2022FY1Q)

連結経常利益61億円(前年同期比-32億円)

売上数量の減少、Ovakoの一過性影響の縮小により、減収減益

エネルギーサーチャージ等の適用に伴い販売価格は上昇も、売上数量の減少や原燃料価格の上昇、諸資材等へのインフレ影響に加え、Ovakoの売上数量の減少や一過性影響の縮小などにより、前年同期比減収減益。

(単位：億円、%)

	2023FY1Q (A)		2022FY1Q (B)		増減 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	999	100.0	1,041	100.0	-42	-4.0
営業利益	55	5.5	88	8.4	-33	-37.4
<b>経常利益</b>	<b>61</b>	<b>ROS 6.1</b>	93	ROS 8.9	<b>-32</b>	<b>-34.6</b>
内、当社単独	20	4.2	34	7.1	-14	-40.0
内、Ovako	52	11.8	73	14.7	-21	-28.5
内、SSMI	2	2.9	▲1	-	+3	-
内、のれん償却費	▲8	-	▲7	-	-1	-
税後利益 (注1)	43	4.3	69	6.6	-26	-37.4
のれん償却費を除く税後利益	51	5.1	76	7.3	-25	-33.0
<b>売上数量 (千t)</b>	<b>392</b>	<b>130.6 /月</b>	440	146.5 /月	<b>-48</b>	<b>-15.9 /月</b>
内、当社単独	213	71.0 /月	234	78.1 /月	-21	-7.2 /月
内、Ovako	152	50.7 /月	177	59.0 /月	-25	-8.3 /月
内、SSMI	27	8.9 /月	28	9.3 /月	-1	-0.4 /月

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～3月の数値

# 事業環境

## 需要動向

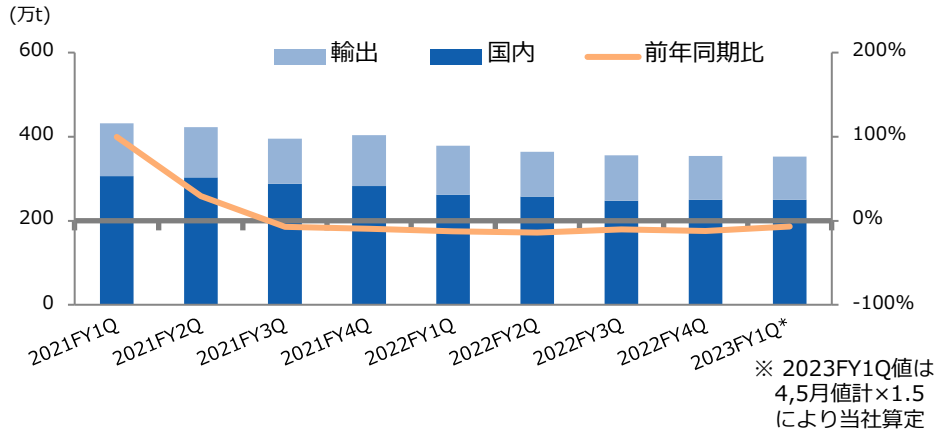
半導体不足緩和も、自動車生産の回復は緩やか、建設・産業機械向けは調整局面が継続。  
欧州の景気悪化や、中国経済の回復遅れによる特殊鋼需要の回復遅れを懸念。

## 原燃料価格

エネルギー価格はピークアウトするも、原燃料価格は依然として高位で推移。  
諸資材等のインフレも進展。

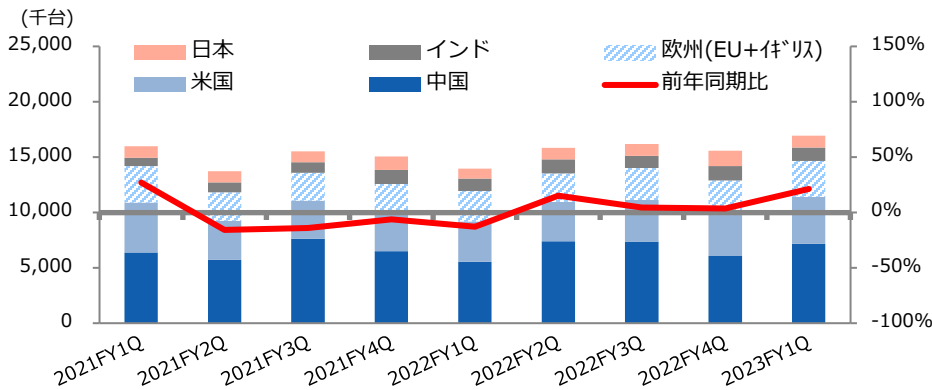
### 1. 特殊鋼受注数量

出典：一般社団法人 日本鉄鋼連盟

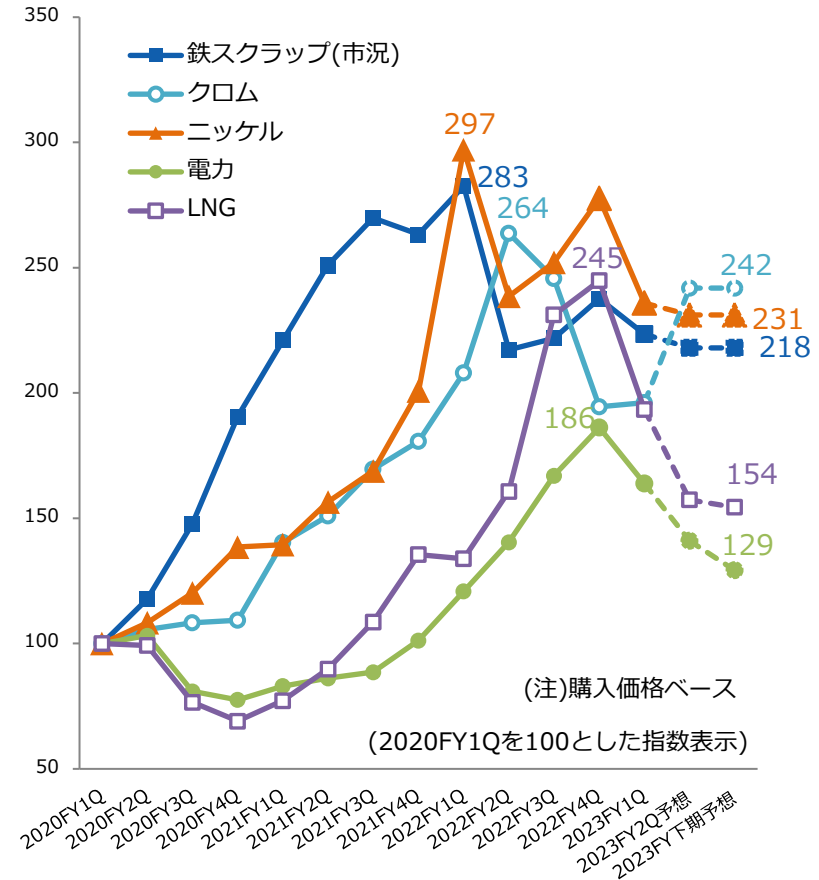


### 2. 主要国自動車販売台数

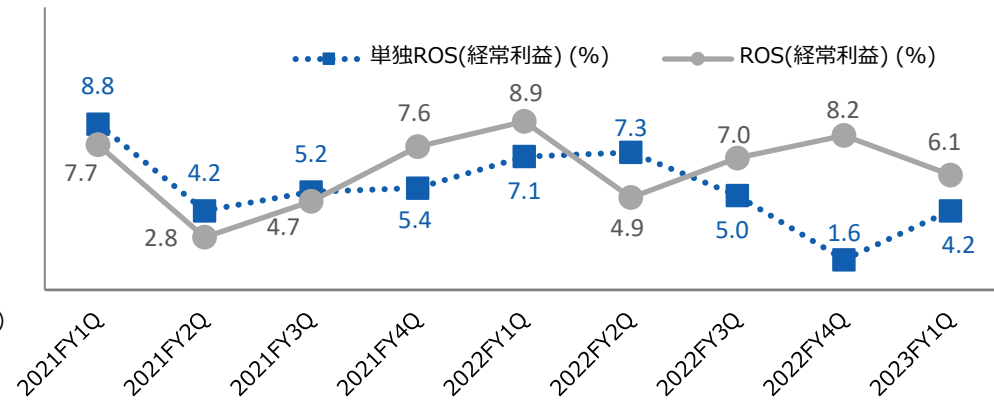
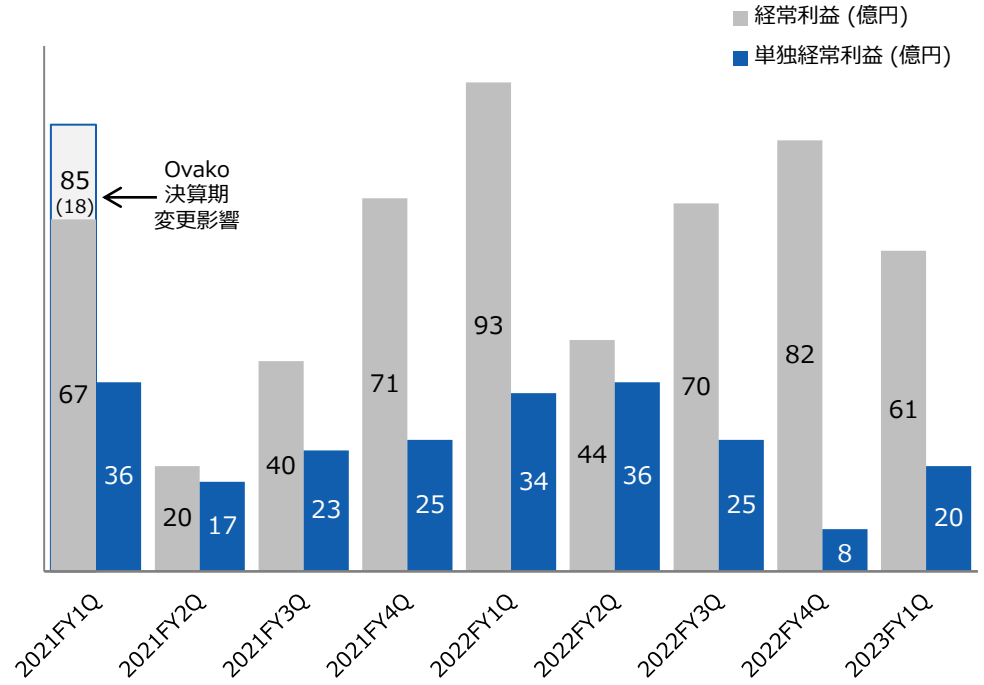
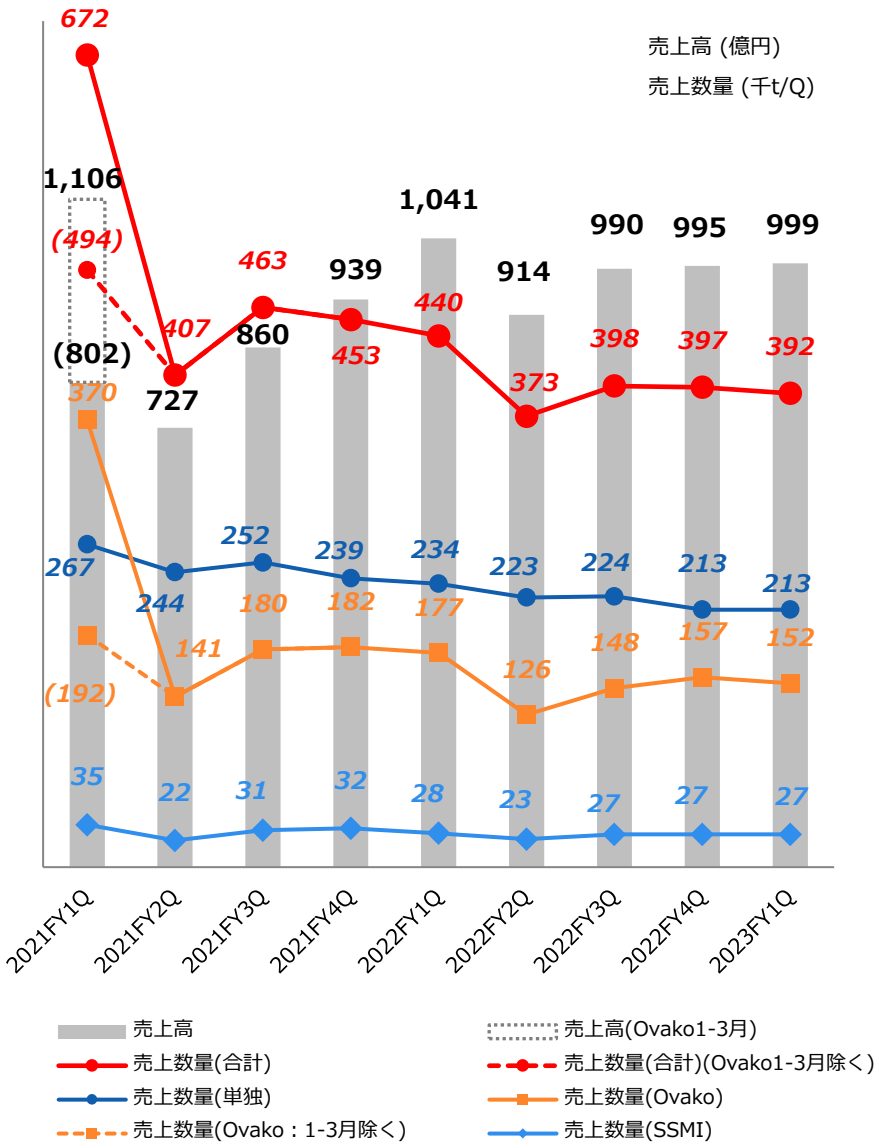
出典：マークラインズ、ACEA



### 3. 原燃料価格推移



# 業績推移(四半期)



## セグメント別損益

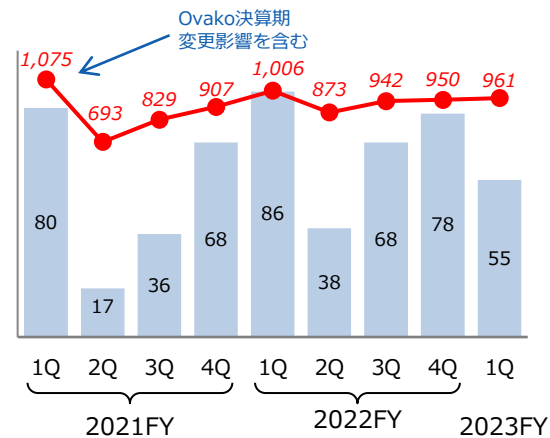
(単位：億円、%)

	2023FY1Q (A)			2022FY1Q (B)			対前年同期 (A) - (B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	961	55	5.7	1,006	86	8.5	-45	-31	-2.8
粉末	14	3	18.1	13	3	22.4	+1	-0	-4.3
素形材	45	▲3	-5.8	46	▲1	-2.1	-2	-2	-3.7
<b>小計</b>	<b>1,020</b>	<b>55</b>	<b>5.4</b>	<b>1,065</b>	<b>88</b>	<b>8.2</b>	<b>-45</b>	<b>-33</b>	<b>-2.9</b>
その他	3	▲0	-1.7	2	0	1.3	+0	-0	-3.0
調整額	▲23	0	-	▲27	0	-	+3	+0	-
<b>連結計</b>	<b>999</b>	<b>55</b>	<b>5.5</b>	<b>1,041</b>	<b>88</b>	<b>8.4</b>	<b>-42</b>	<b>-33</b>	<b>-2.9</b>

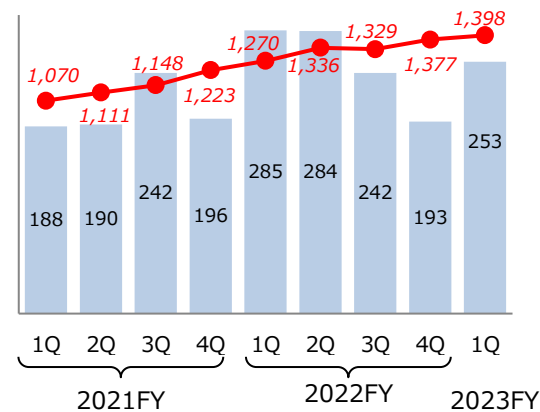
## 事業別損益推移

■ 営業利益 ● 売上高

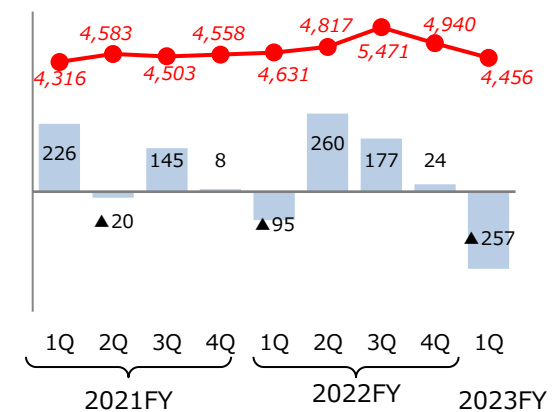
鋼材セグメント (単位：億円)



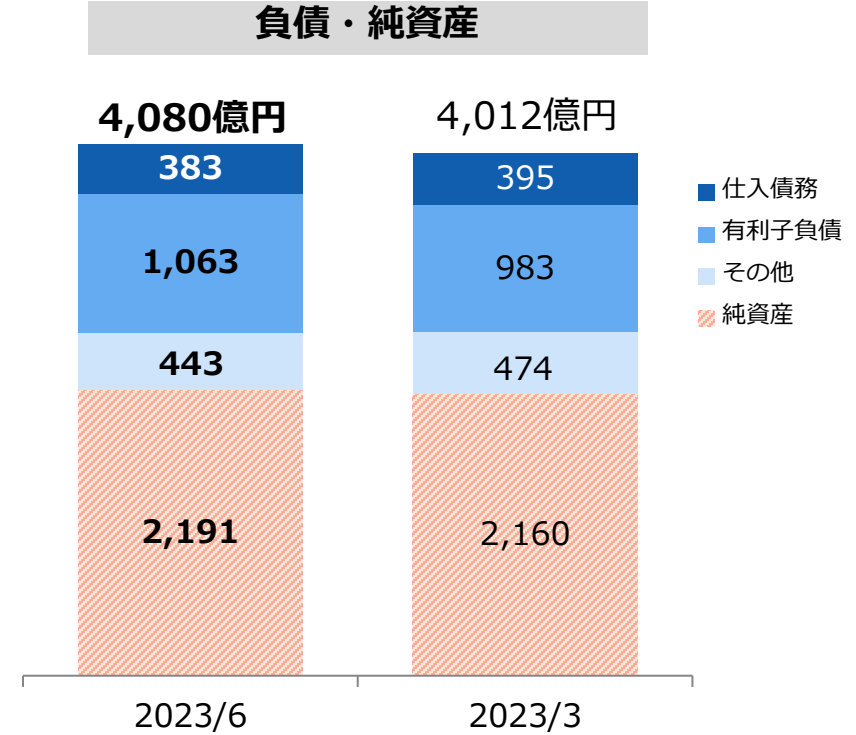
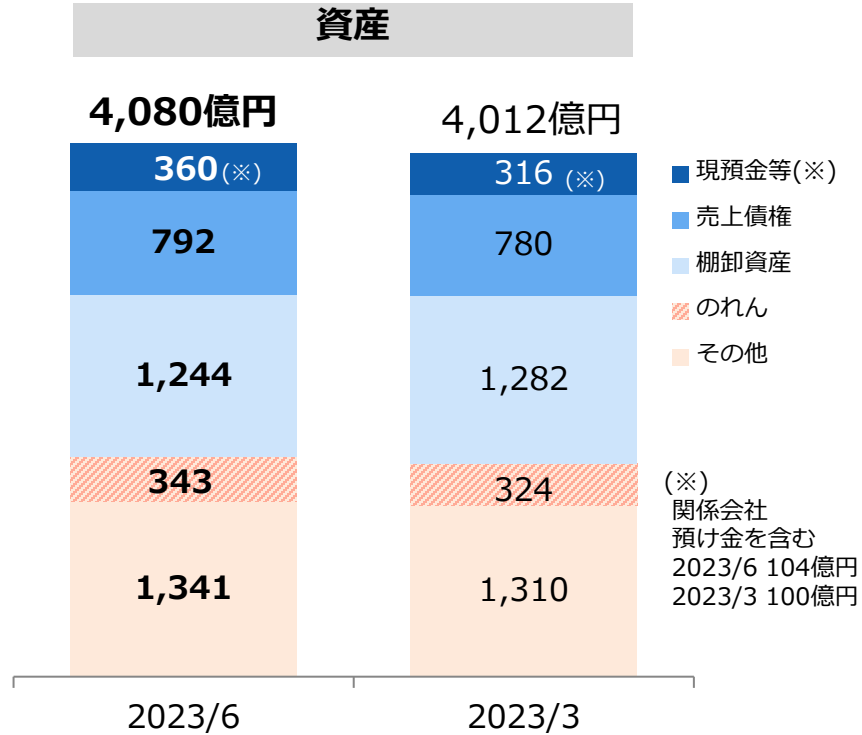
粉末セグメント (単位：百万円)



素形材セグメント (単位：百万円)



## 貸借対照表

**資産の主な増減 +68億円 (+1.7%)**

[内、為替影響 +138億円]

- 現金等 +44億円
- 棚卸資産 -38億円：数量減による減少
- のれん +18億円：償却 -8億円、為替影響 +26億円
- その他 +31億円：有形固定資産の増加など

**負債・純資産の主な増減 +68億円 (+1.7%)**

[内、為替影響 +138億円]

- 有利子負債 +80億円：運転資金調達に伴う増加
- その他 -31億円：法人税の支払い
- 純資産 +31億円：利益剰余金+19億  
(税後利益+43億円、配当-25億円)

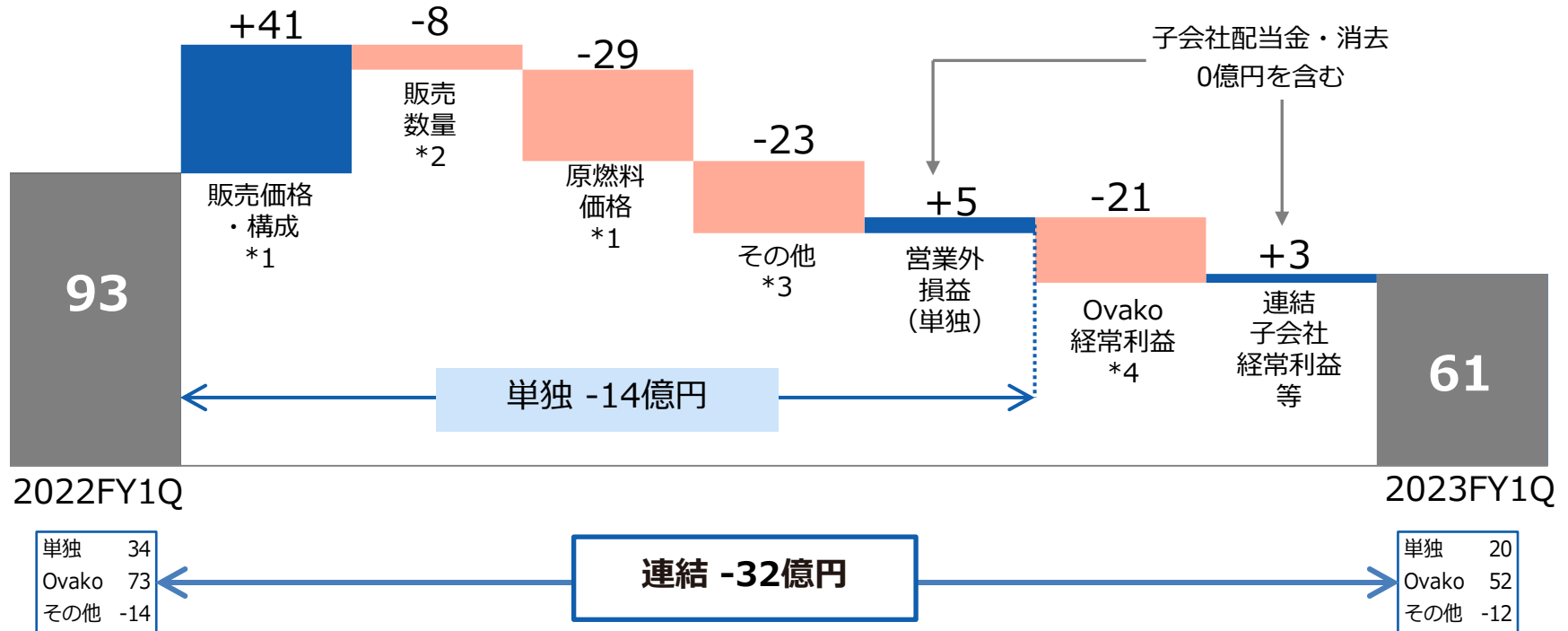
(参考)主要各社の総資産額(2023/6末:連結消去前)  
 当社 2,802億円 Ovako 1,330億円 SSMI 136億円

自己資本比率  
 2023/6末 53.3%      2023/3末 53.4%



# 経常利益の変化要因 (2022FY1Q→2023FY1Q)

(億円)



## \*1 サーチャージのタイムラグ

- ・鉄スクラップ+3 (×6→×3)
- ・エネルギー+7 (×4→○3)

## \*2 販売数量

- ・9%減 (-21千t : 234千t→213千t)

## \*3 その他内訳

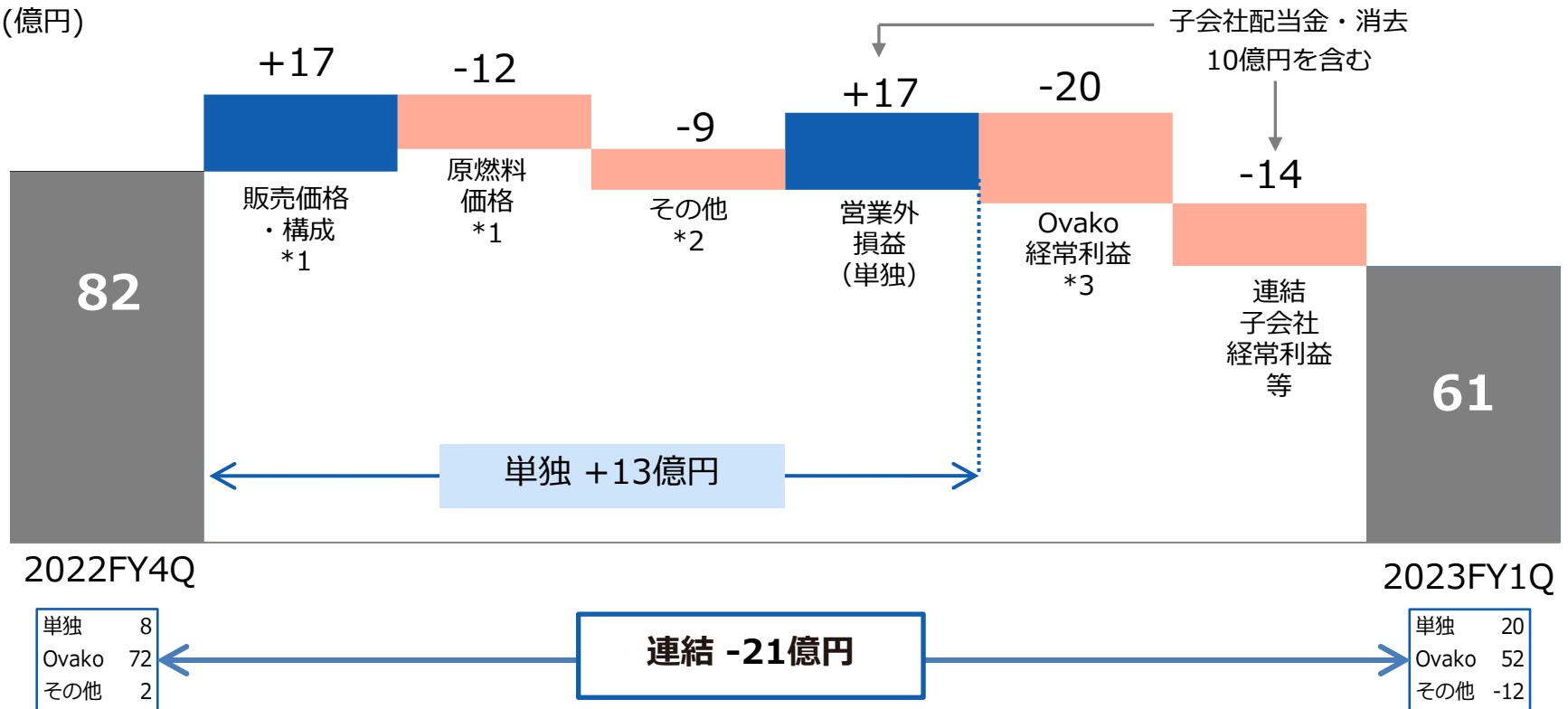
- ・諸資材・外注・物流費等-12、修繕費-4、固定費-7

## \*4 Ovako経常利益

- ・販売数量 -29  
14%減 (-25千t : 177千t→152千t)
- ・一過性要因 -13 (+29→+16)  
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -8 (+8→ 0)  
健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→ 0)  
スクラップ市場別価格影響 +1 (+7→+8)  
為替影響 -1 (+6→+5)  
エネルギー補助金 +3 ( 0→+3)
- ・販売・原燃料価格、構成 +16
- ・その他 +5

# 経常利益の変化要因 (2022FY4Q→2023FY1Q)

(億円)



## \*1 サーチャージのタイムラグ

- ・鉄スクラップ-7 (〇5→×3)
- ・エネルギー+17 (×14→〇3)

## \*2 その他内訳

- ・諸資材・外注・物流費等-5、修繕費-2、固定費-2

## \*3 Ovako 経常利益

- ・販売数量 -7  
3%減 (-5千t : 157千t→152千t)
- ・一過性要因 -5 (+21→+16)  
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -7 (+7→ 0)  
スクラップ市場別価格影響 -1 (+9→+8)  
為替影響 0 (+5→+5)  
エネルギー補助金 +3 ( 0→+3)
- ・販売・原燃料価格、構成 -10
- ・その他 +2

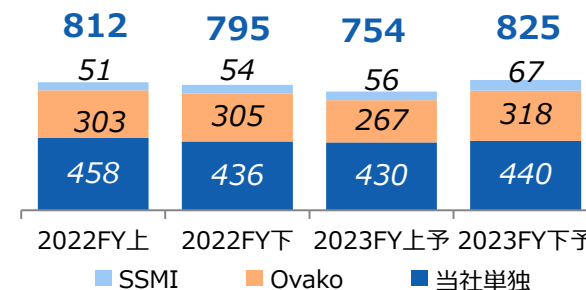
## 2. 業績予想等

# 2023FY業績予想 (2023/7/28公表)

## 連結経常利益200億円(前期比-89億円)

売上数量は、自動車向けは緩やかに回復も、建機・産機向けは調整継続、欧州景気悪化、中国経済回復遅れにより、前期比減少を想定。前期のOvakoの一過性影響が縮小、原燃料価格が高位で推移し、諸資材等へのインフレ影響が進展する中、実質的に前期並み(※)の経常利益200億円を目指す。

[参考] 売上数量推移 (千t/半期)



(単位：億円、%)

	23FY	23FY	2023FY予想		2022FY		増減	
	上期予想	下期予想	(C)=(A)+(B)		(D)		(C)-(D)	
	(A)	(B)	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,850	2,010	3,860	100.0	3,938	100.0	-78	-2.0
営業利益	75	125	200	5.2	285	7.2	-85	-29.8
<b>経常利益</b>	<b>80</b>	<b>120</b>	<b>200</b>	<b>5.2</b>	289※	7.3	-89	-30.7
内、当社単独	70	80	150	7.9	102	5.3	+48	+46.9
内、Ovako	47	53	100	6.2	211	12.3	-111	-52.7
内、SSMI	3	4	7	2.7	▲2	-	+9	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲31	-	▲29	-	-2	-
税後利益 (注1)	50	90	140	3.6	207	5.3	-67	-32.5
ROE (%)			6.4		10.1		-3.7	
のれん償却費を除く税後利益	65	106	171	4.4	237	6.0	-66	-27.8
ROE (%)			7.8		11.5		-3.7	

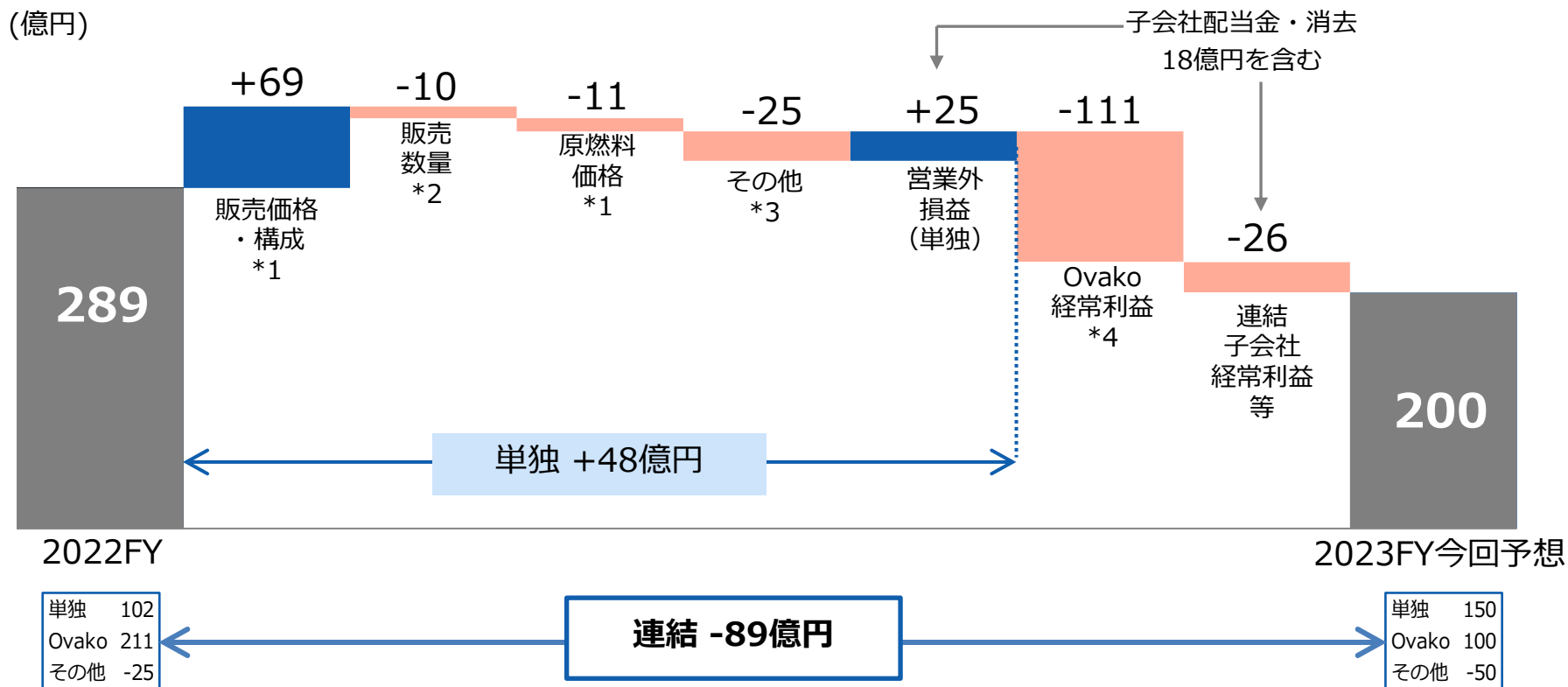
※ Ovakoの一過性影響を除くと193億円

(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益 (注2) SSMI：1月～12月の数値

【予想の主要前提(2023年7月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 47.0千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 140円/\$、150円/€

# 経常利益の変化要因 (2022FY→2023FY今回予想)



## \*1 サーチャージのタイムラグ

- ・鉄スクラップ-11 (〇13→〇2)
- ・エネルギー+58 (×30→〇28)

## \*2 販売数量

- ・3%減 (-24千t : 894千t→870千t)

## \*3 その他内訳

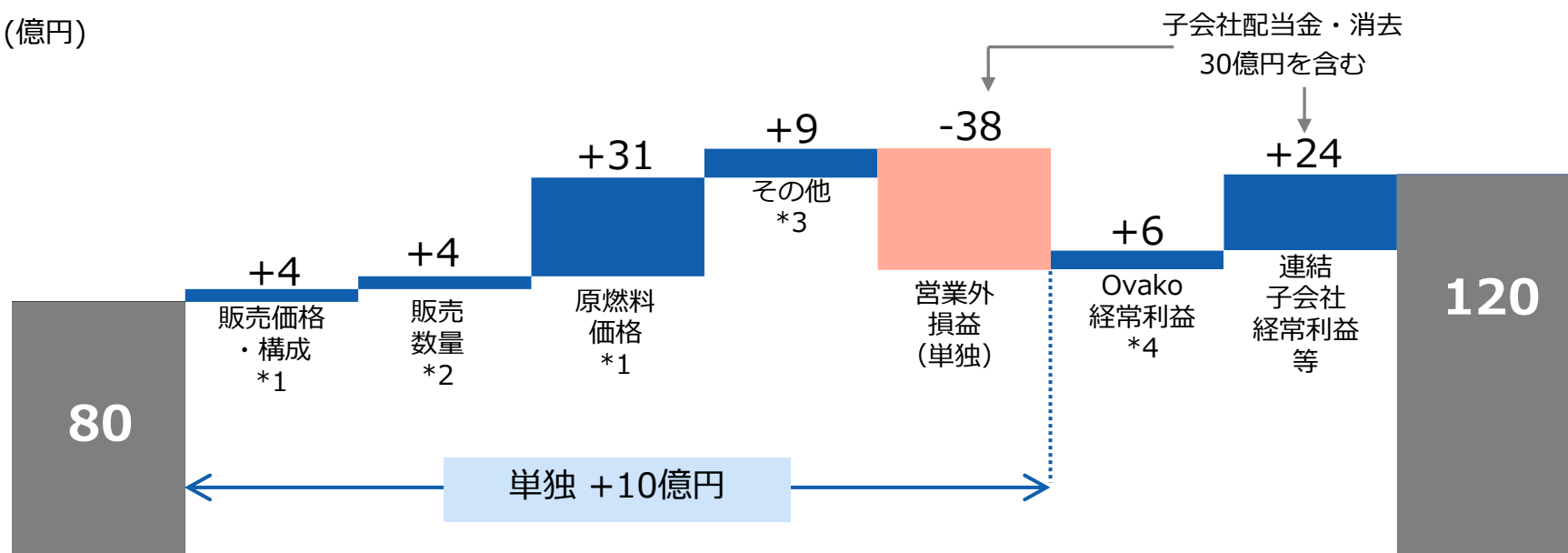
- ・変動費コストダウン+8、諸資材・外注・物流費等-16、修繕費-5、固定費-12

## \*4 Ovako 経常利益

- ・販売数量 -29  
4%減 (-23千t : 608千t→585千t)
- ・一過性要因 -80 (+96→+16)  
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -28 (+28→0)  
健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→0)  
スクラップ市場価格差 -25 (+33→+8)  
為替影響 -19 (+24→+5)  
エネルギー補助金 +3 (0→+3)
- ・販売・原燃料価格、構成 +1
- ・その他 -3

# 経常利益の変化要因 (2023FY上期予想→2023FY下期予想)

(億円)



2023FY上期予想

2023FY下期予想

単独	70
Ovako	47
その他	-37

連結 +40億円

単独	80
Ovako	53
その他	-13

## \*1 サーチャージのタイムラグ

- 鉄スクラップ+3 (×0→○2)
- エネルギー+4 (○12→○16)

## \*2 販売数量

- 2%増 (+10千t : 430千t→440千t)

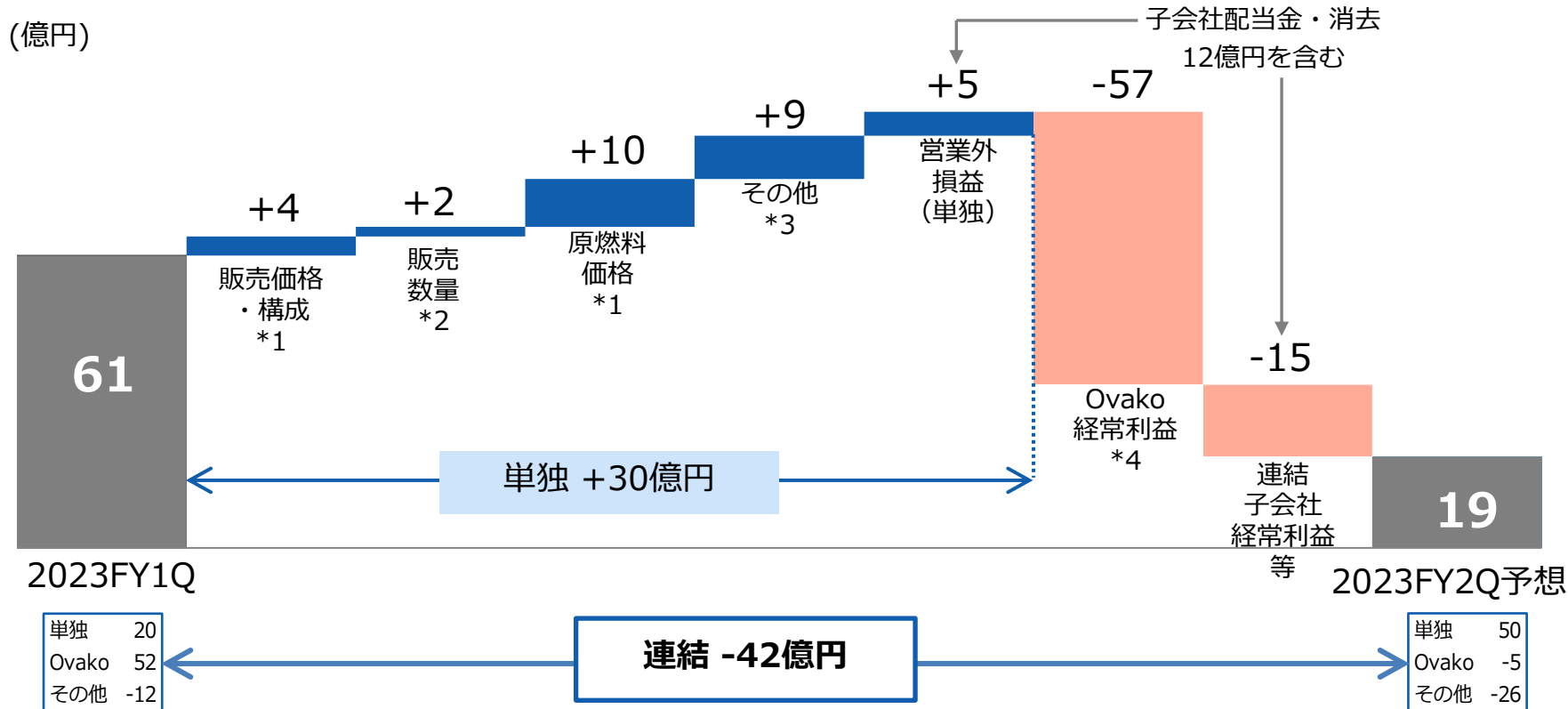
## \*3 その他内訳

- 変動費コストダウン+6、諸資材・外注・物流費等+3、固定費+1、修繕費-1

## \*4 Ovako 経常利益

- 販売数量 +57  
19%増 (+51千t : 267千t→318千t)
- 一過性要因 -16 (+16→ 0)  
うち、スクラップ市場別価格影響 -8 (+8→ 0)  
為替影響 -5 (+5→ 0)  
エネルギー補助金 -3 (+3→ 0)
- 販売・原燃料価格、構成 -30
- その他 -5

# 経常利益の変化要因 (2023FY1Q→2023FY2Q予想)



## \*1 サーチャージのタイムラグ

- ・鉄スクラップ+5 (×3→○2)
- ・エネルギー+6 (○3→○9)

## \*2 販売数量

- ・2%増 (+5千t : 213千t→218千t)

## \*3 その他内訳

- ・変動費コストダウン+4、諸資材・外注・物流費等+1、修繕費+2、固定費+2

## \*4 Ovako 経常利益

- ・販売数量 (季節差等) -46  
24%減 (-37千t : 152千t→115千t)
- ・一過性要因 -16 (+16→ 0)  
うち、スクラップ市場別価格影響 -8 (+8→ 0)  
為替影響 -5 (+5→ 0)  
エネルギー補助金 -3 (+3→ 0)
- ・販売・原燃料価格、構成 -7
- ・その他 +12

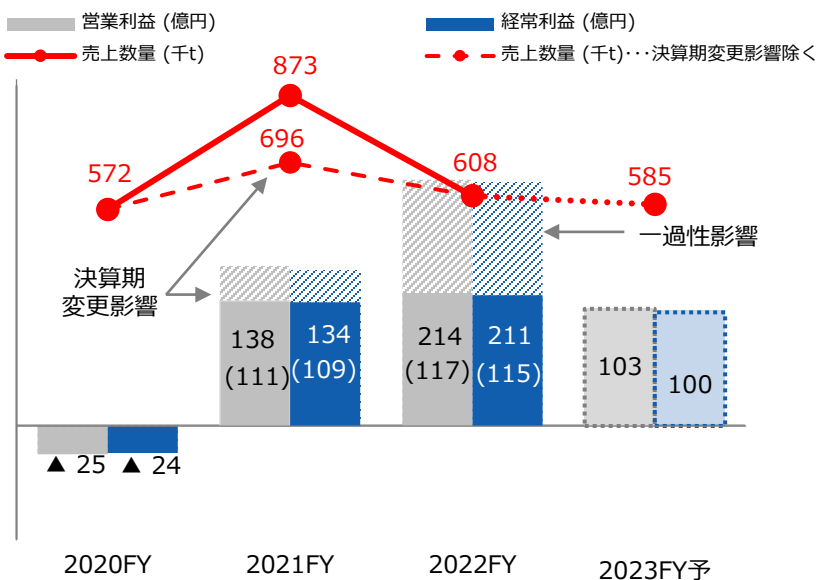
# Ovakoの状況

## 2023FY見通し

### 経常利益100億円(前期比-111億円)

- ・ベース値上げは計画通り進捗。2023FY1Qは、前年同期比で販売数量の減少はあったものの、一過性要因もあり、経常利益は52億円(前年同期比-21億円(73→52))。
- ・欧州景気後退による販売数量減少リスクはあるものの、インフレ対応等値上げによるマージン確保および生産構造最適化の実行を通じた固定費のコントロールにより、一過性影響を除いた2022FY並みの損益達成を目指す。

## 売上数量、営業利益、経常利益推移



## 収益力強化の取り組みと3社連携

### 1. 収益力の強化

- ① ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
- ② ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ③ 固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る

### 2. 3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進
- ② 操業支援によるコスト削減
- ③ 調達コストの削減



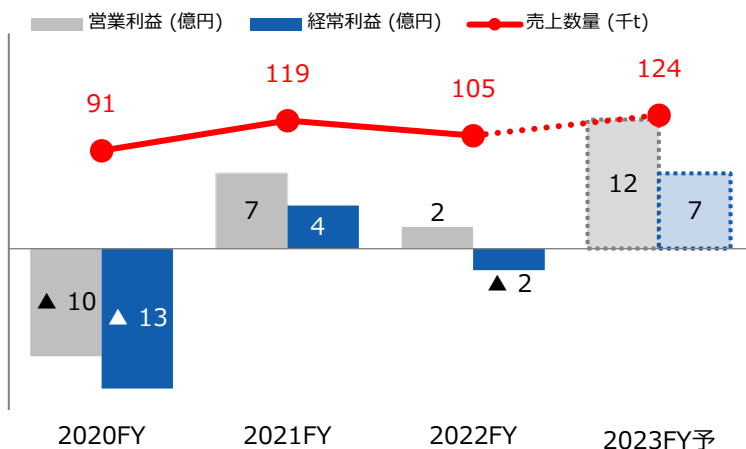
# SSMIの状況

## 2023FY見通し

### 経常利益7億円(前期比+9億円)

- ・ 2023FY1Q(1-3月)は、前年同期比で販売数量の減少はあったものの、値上げ実施・原燃料価格下落の影響もあり、経常利益は2億円(前年同期比+3億円(-1→2))。
- ・ 高収益分野を中心にした販売数量の拡大に加え、安価鉄源の有効活用や電力コスト低減の取り組みおよび生産工程の見直しなどによるコスト改善施策を遂行し、2023FYは7億円の黒字を計画。

## 売上数量、営業利益、経常利益推移



## 収益力強化に向けた取り組み

1. 営業基盤・営業体制の強化  
高浄度技術を生かした営業戦略策定、  
拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
2. 変動費の削減  
エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の有効活用  
による操業コスト・調達コストの削減
3. 固定費の抑制

2023年7月に84.57%まで出資比率向上。**生産、技術、人材、財務面等を一層強化**することにより、**中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固**たるものとし、**当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長**を図る。

## 2023FY配当予想

		2023FY 中間予想	2023FY 期末予想	2023FY 年間予想
当期純利益 (注)		50億円	90億円	140億円
のれん償却費を除く当期純利益		65億円	106億円	171億円
1株当たり純利益	A	91.8円		257.0円
のれん償却費を除く1株当たり純利益	B	119.3円		313.8円
<b>1株当たり配当金</b>	<b>C</b>	<b>35.0円</b>	<b>65.0円</b>	<b>100.0円</b>
配当性向	C/A	38.1%		38.9%
	C/B	29.3%		31.9%

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益



通期の過去最高額  
(前期と同額)

2023年7月改定

## ＜配当方針＞

配当性向、1株当たり配当額水準および成長投資等の所要資金などを総合的に勘案  
通常<sup>①</sup>の連結配当性向**35%**程度、のれん償却除き**30%**程度を目安とする

## 3. トピックス

# トピックス

## 1. 業績等連動報酬 (2023年6月)

ESG

役員の業績等連動報酬に、従来の業績に関する指標に加え、ESGの観点から次の5つの指標を追加。

- ・ CDP気候変動スコア
- ・ 健康経営度評価
- ・ 安全指標
- ・ 女性管理職比率
- ・ 社外取締役による取締役会実効性評価



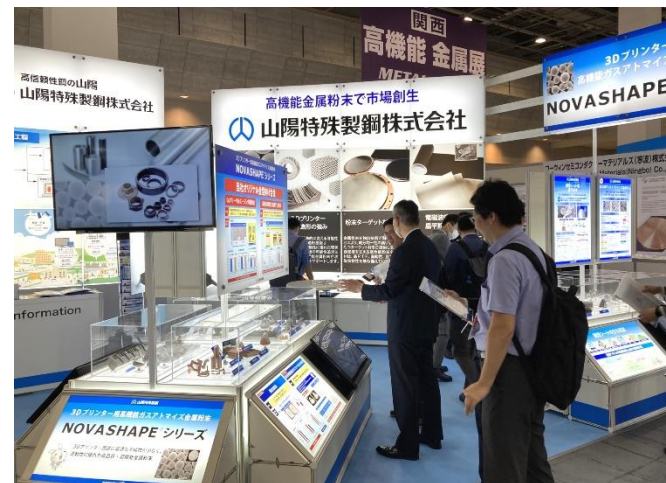
## 2. 第10回関西高機能金属展へ出展 (2023年5月17日～5月19日)

その他

大阪で開催されたメタルジャパン(高機能金属展)へ出展。

### 【当社出展製品例】

- ・ 3Dプリンタ用高機能金属粉末「NOVASHAPE®シリーズ」
- ・ 高熱伝導性工具鋼T12 粉末
- ・ 歯科医療向け人工歯用CoCrMoW合金粉末



## トピックス

## 3. 文化活動、地域社会との連携

ESG

## 文化講演会を開催 (2023年5月23日)

- ・ 当社文化振興財団が文化講演会を開催。
- ・ 文化の普及、啓発を図る目的で開催しており、今年で31回目。
- ・ 姫路市民など約550名が参加。



## 中学生の職業体験

## 「トライやる・ウィーク」受け入れ

(2023年6月5日～6月9日)

- ・ 近隣中学生3名を受け入れ、広報業務の就業体験を実施。
- ・ 当社企業紹介動画への提案。



## 小学生の社会科見学受け入れ (2023年7月10日)

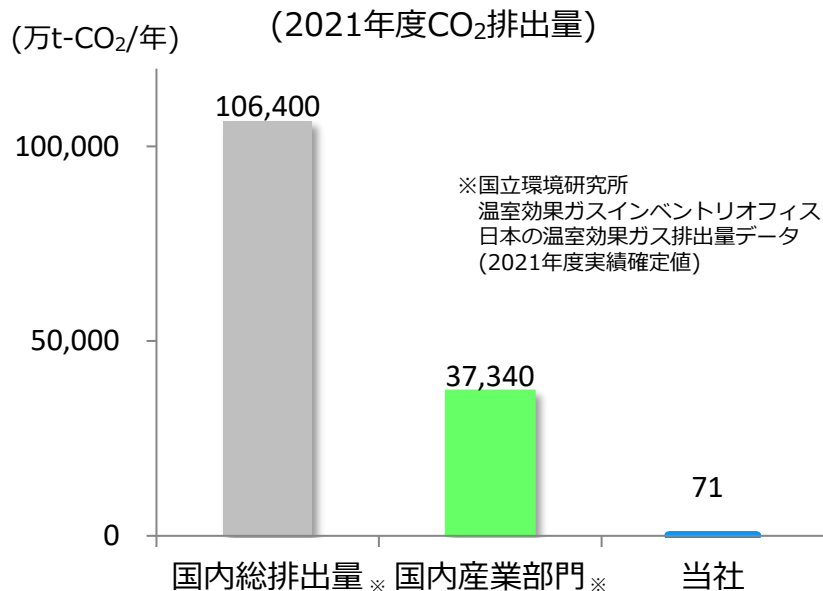
- ・ 姫路市小学校の児童29名を対象に工場見学会を実施。
- ・ 年内までに姫路市小学校の児童計600名受け入れ予定。



## **4. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み**

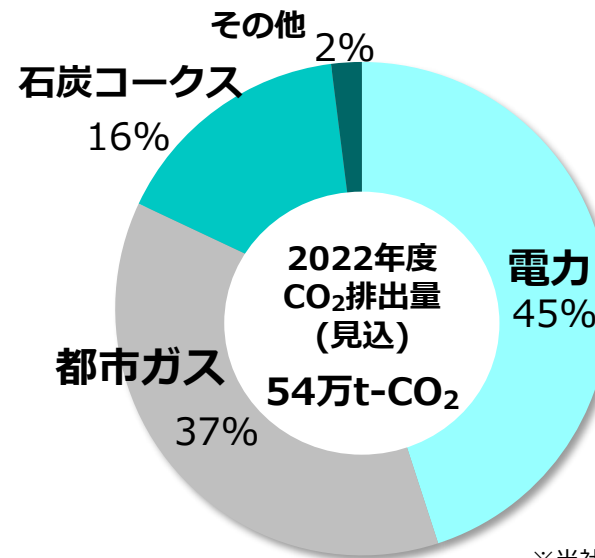
# 当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

## CO<sub>2</sub>排出量における当社の位置づけ



■再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO<sub>2</sub>排出量は、国内産業部門の0.2%程度

## 当社のCO<sub>2</sub>排出量内訳



※当社単独(Scope1+2)

■当社のCO<sub>2</sub>排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO<sub>2</sub>排出削減を目指す

### GXリーグへの参画

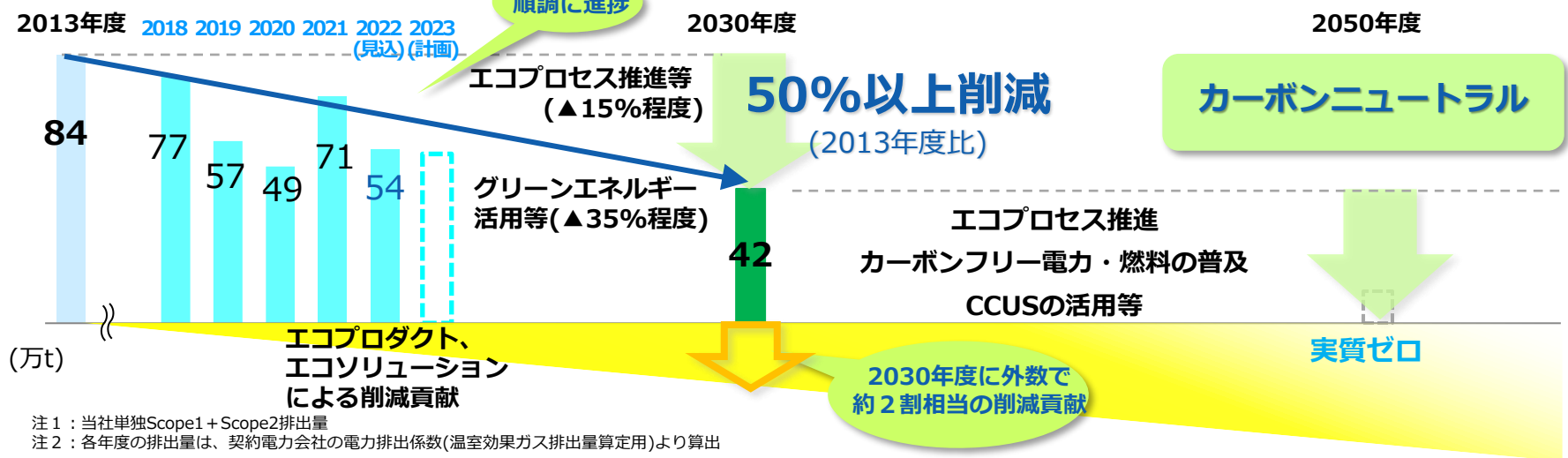
当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同、2023年5月にGXリーグに参画した。

自主的な排出量取引、市場創造のためのルール形成、ビジネス機会の創発、GXスタジオでの交流といったGXリーグにおける活動に積極的に参加していく。



# 2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO<sub>2</sub>排出量注1】



## エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進

- リジエネバーナーを採用した省エネ加熱炉
- ※2023年度からインターナショナルカーボンプライシングを導入

## グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用

- ※2022年度から再エネ由来電力の一部活用を開始

## エコプロダクト

製品を使用する段階でCO<sub>2</sub>排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進

- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発

## エコソリューション

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、SSMI等の海外グループ会社に展開

- 海外グループ会社への技術展開



# エコプロダクトによるCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO<sub>2</sub>排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

## 長寿命軸受鋼

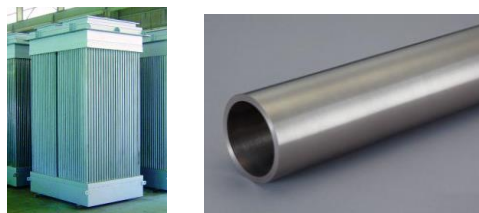


耐久性・信頼性向上による  
部品の小型・軽量化



長寿命化による  
故障率低減・メンテフリー化

## 耐熱ステンレス鋼管



高強度化による  
熱回収効率向上



高耐食性化による  
ごみ発電高効率化

## 高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による  
部品硬化熱処理負荷の軽減



- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO<sub>2</sub>排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

# 欧州子会社Ovakoの取り組み

## 世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

### カーボンフリー水素プラントの建設に着手

#### SBT(目標設定)をコミット

- ※ SBT(Science Based Targets)  
パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと

### 2022年1月から カーボンニュートラルに移行

#### 自社の製造プロセスにおける CO<sub>2</sub>排出を実質ゼロに

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO<sub>2</sub>排出量を相殺
- ✓ 気候サーチャージを適用

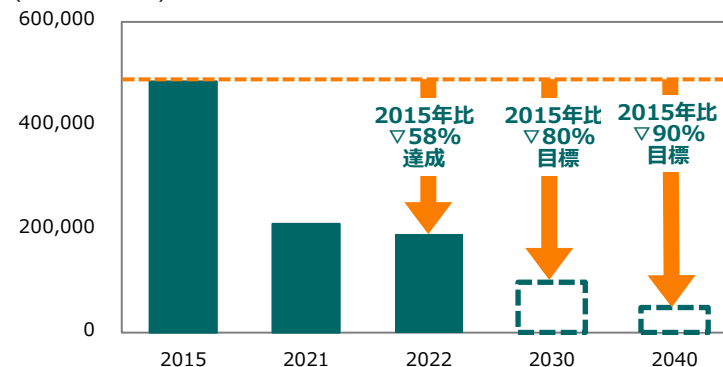
### カーボンフリー水素プラント稼働開始

#### 顧客との協同取り組み事例

- SKFと協同し、CO<sub>2</sub>排出量90%減の軸受生産を達成
- Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画

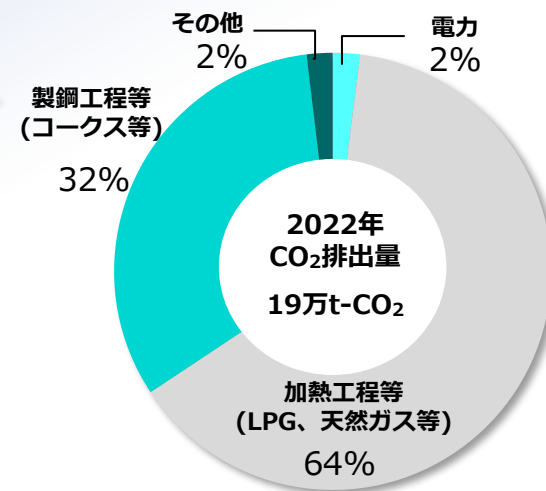
## OvakoのCO<sub>2</sub>排出量(Scope1+2)ロードマップ

(Total CO<sub>2</sub>e ton)



Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2022をもとに作成

## OvakoのCO<sub>2</sub>排出量内訳



2020年  
4月

2021年  
6月

2022年  
1月

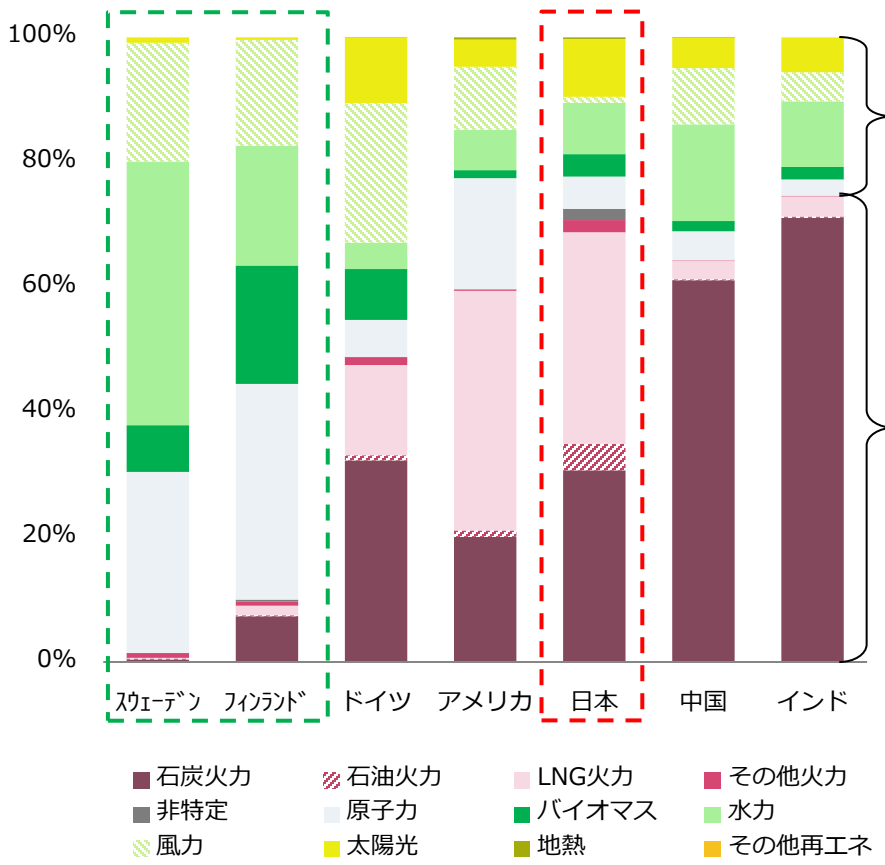
2023年  
9月



# 各国の電源構成と産業用電力価格

## 電源構成(2022年)

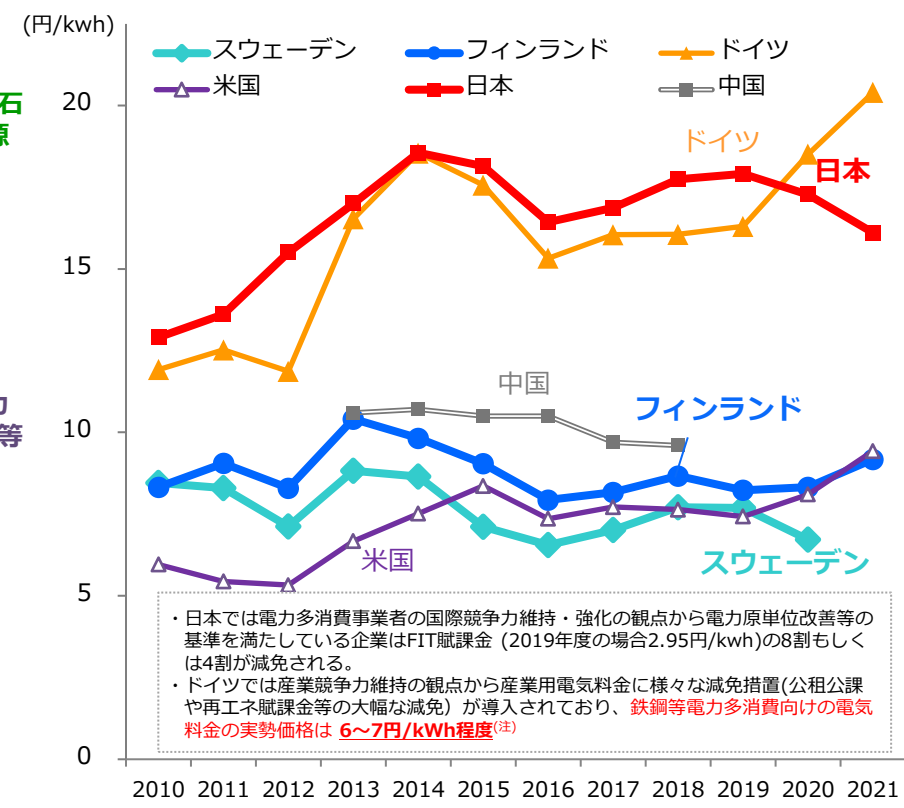
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

## 産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度



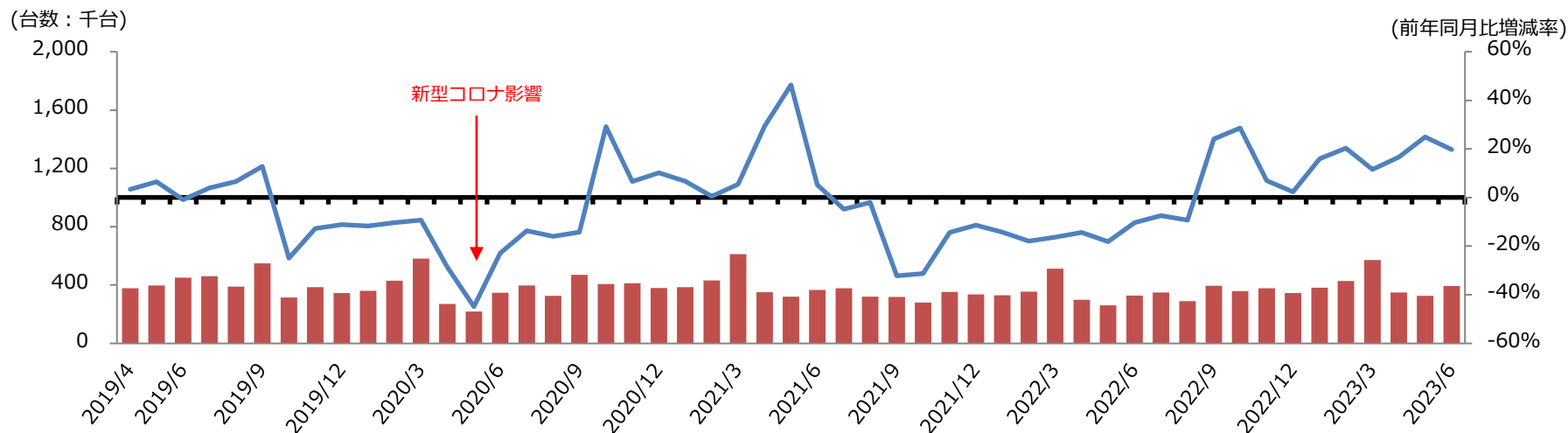
・日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金(2019年度の場合2.95円/kWh)の8割もしくは4割が減免される。  
 ・ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な減免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な減免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は**6~7円/kWh程度**(注)

※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成  
 (注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

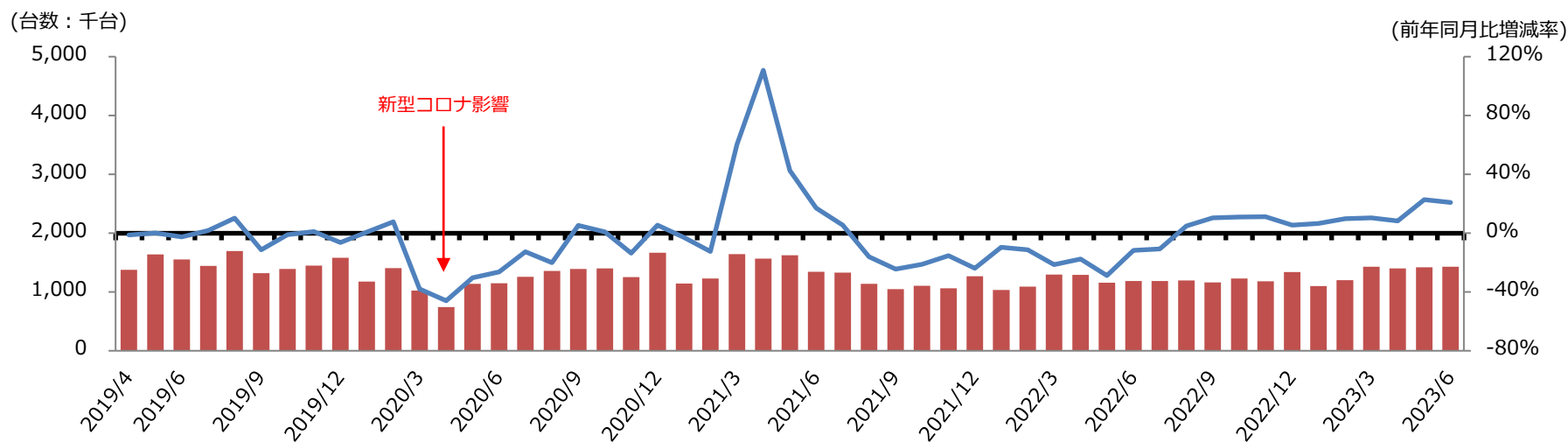
## 5. 參考資料

# 自動車市場の動向

## 日本自動車販売台数 出典：マークラインズ



## 米国自動車販売台数 出典：マークラインズ

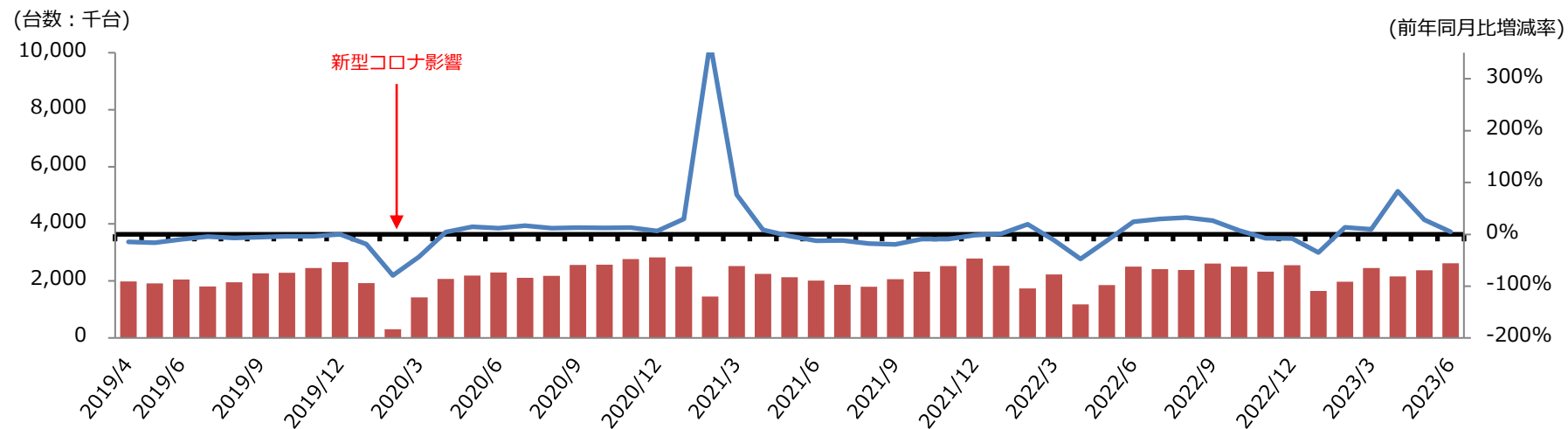


# 自動車市場の動向

## インド自動車販売台数 出典：マークラインズ

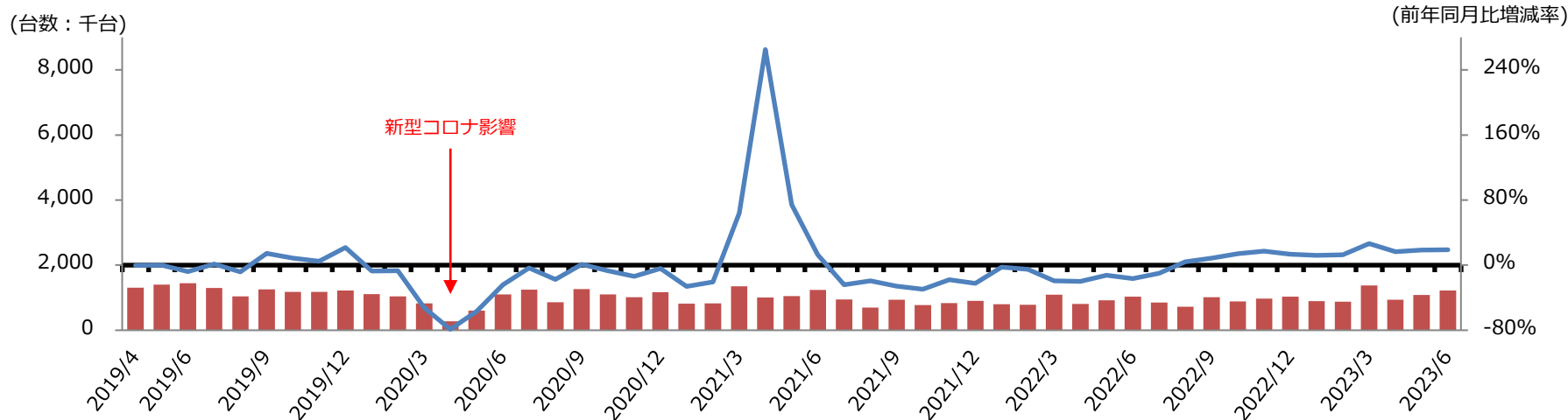


## 中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース) 出典：マークラインズ

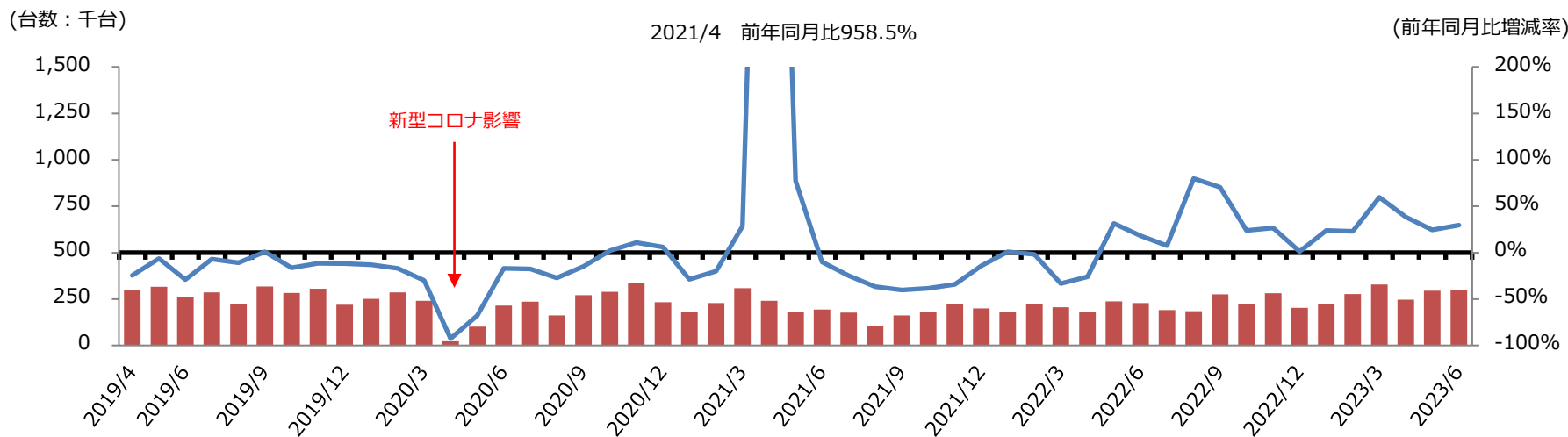


# 自動車市場の動向

## 欧州自動車販売台数 出典：ACEA

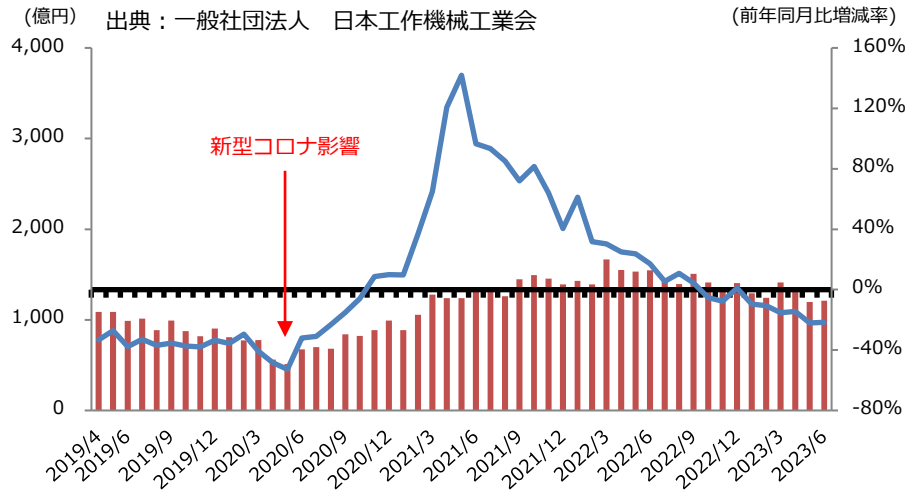


## ドイツ自動車輸出台数 出典：VDA

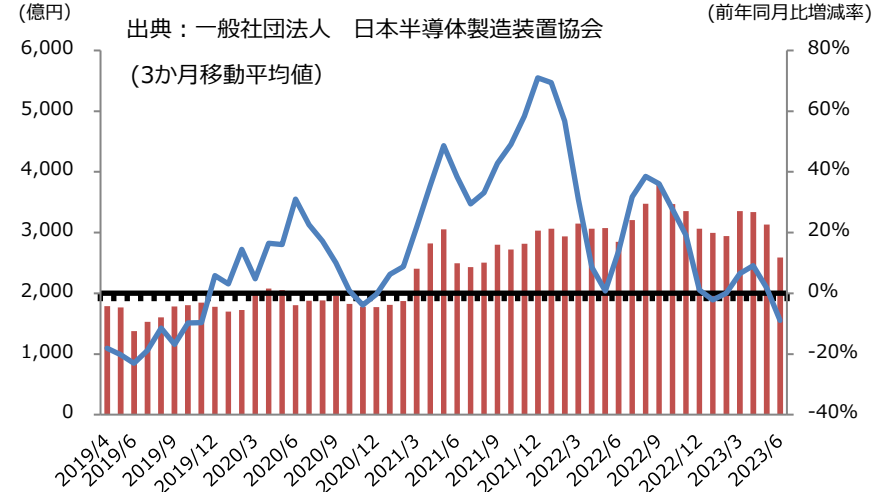


# 産業機械・建設機械市場の動向

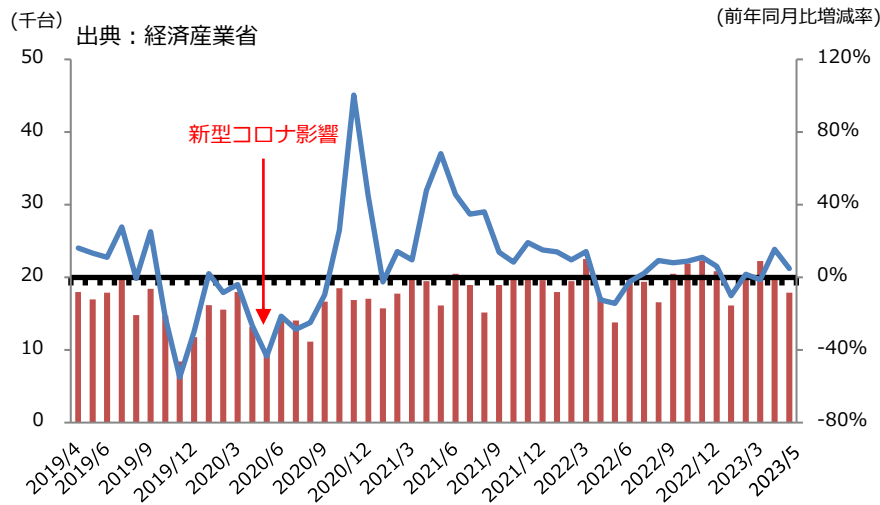
## 工作機械受注金額(日本)



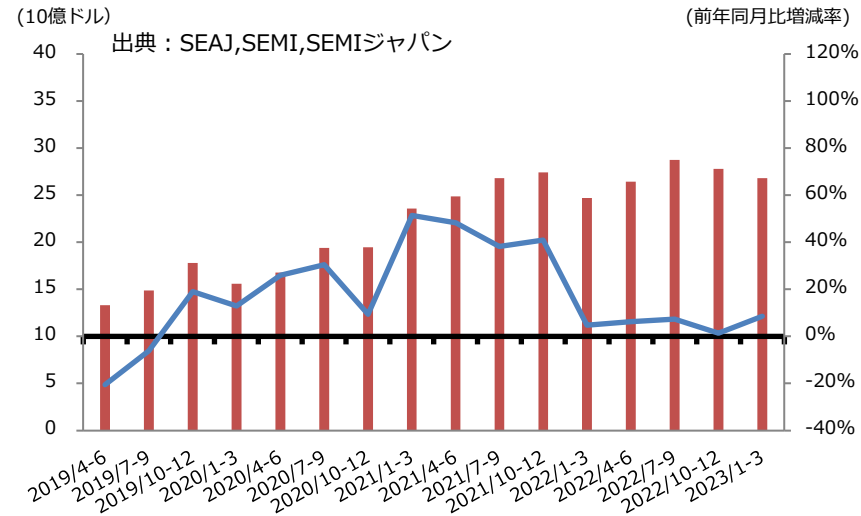
## 半導体製造装置販売金額(日本)



## ショベル系建設機械国内生産台数



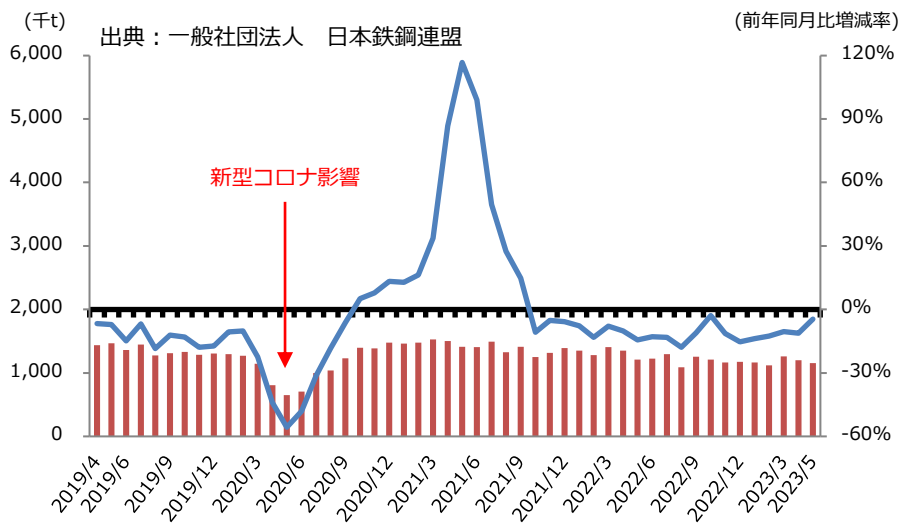
## 半導体製造装置販売金額(世界)





# 特殊鋼需要の動向

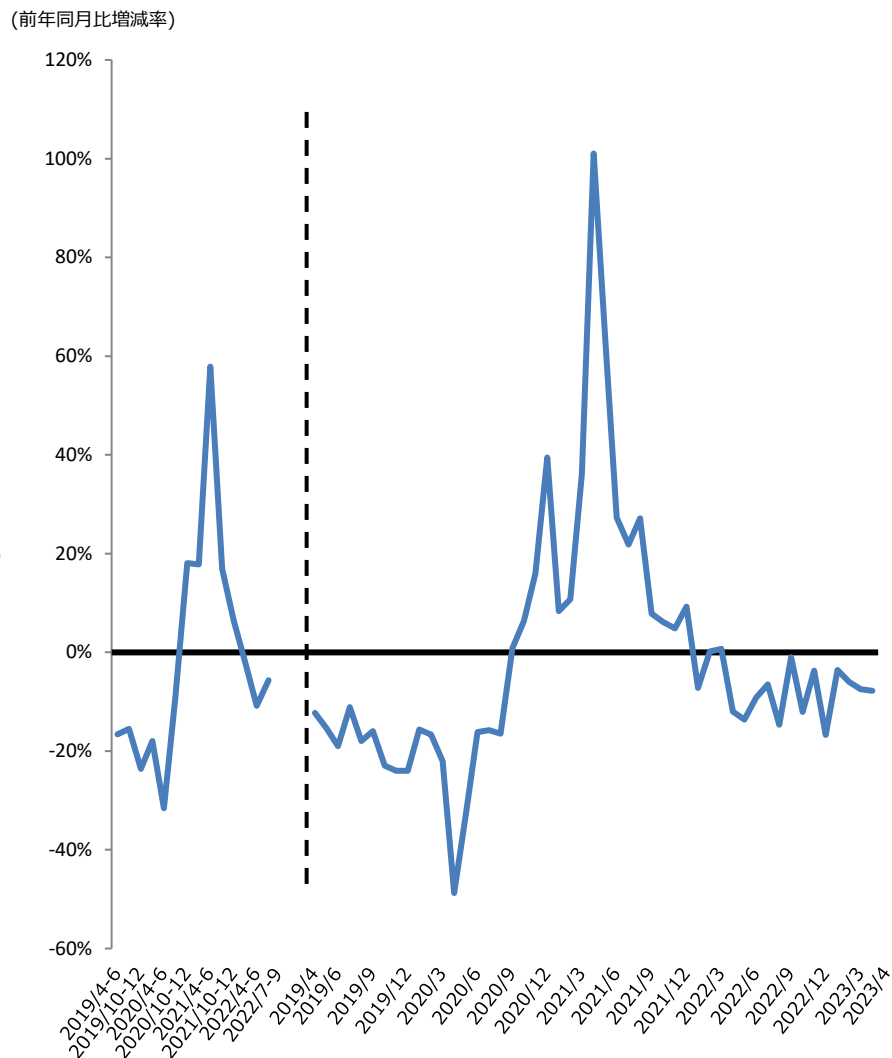
## 日本特殊鋼受注数量(特殊鋼)



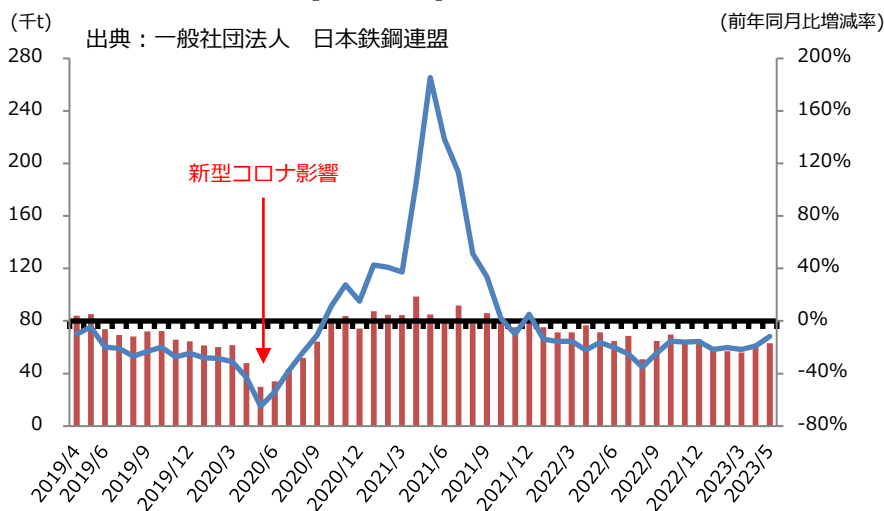
## 欧州デリバリー数量

### 棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

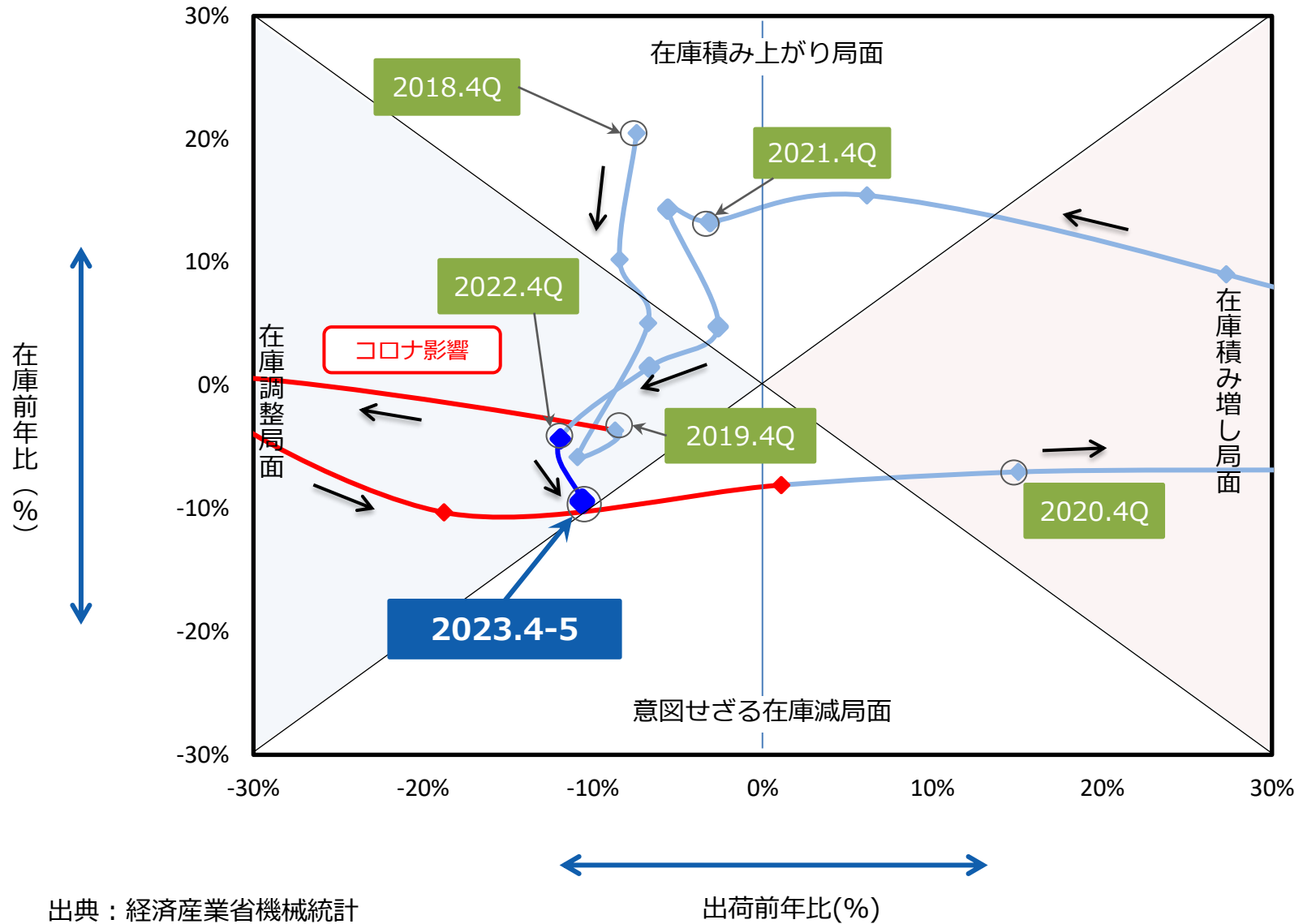
出典：欧州鉄鋼連盟



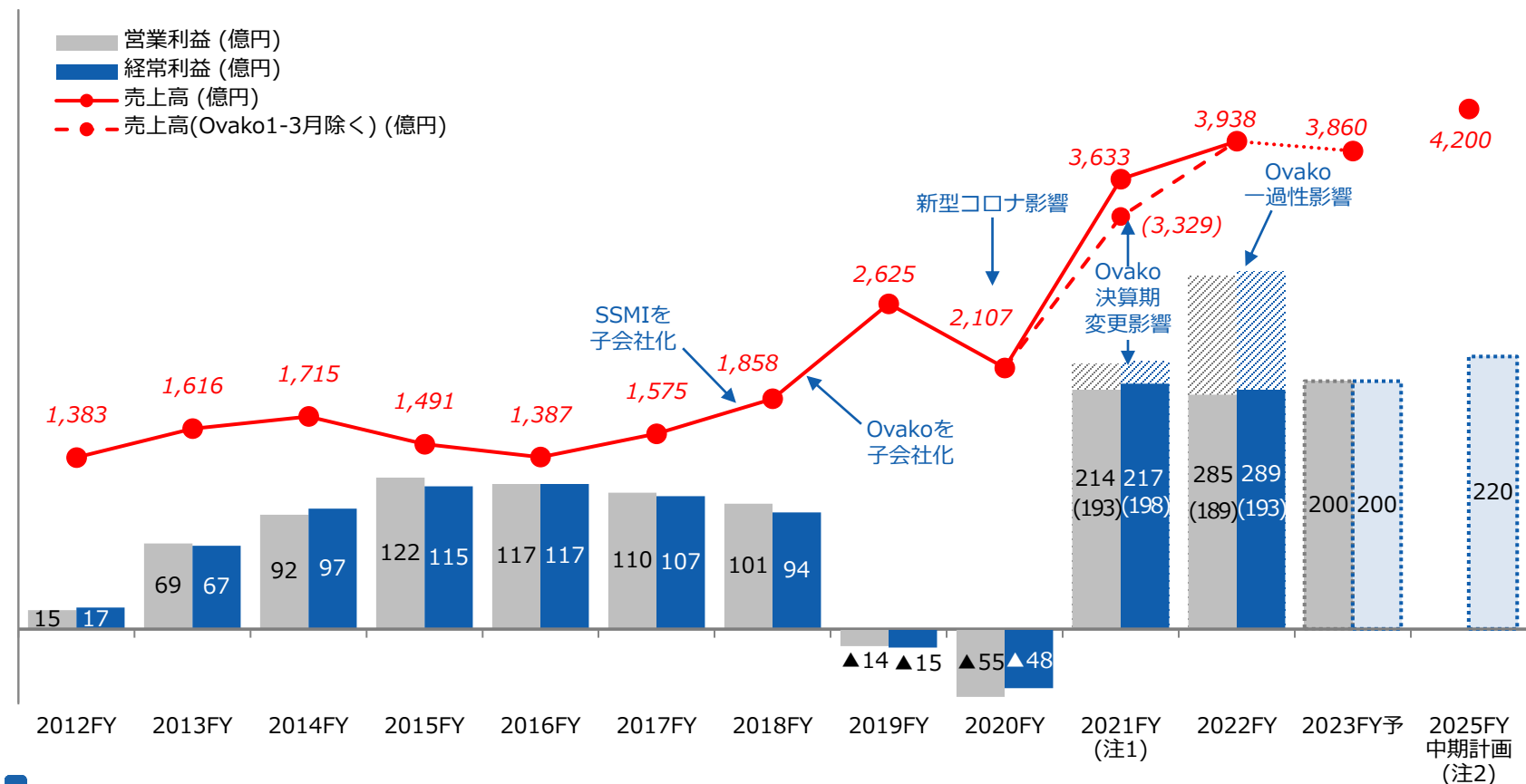
## 日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)



# 軸受在庫循環図



# 業績推移(年度)



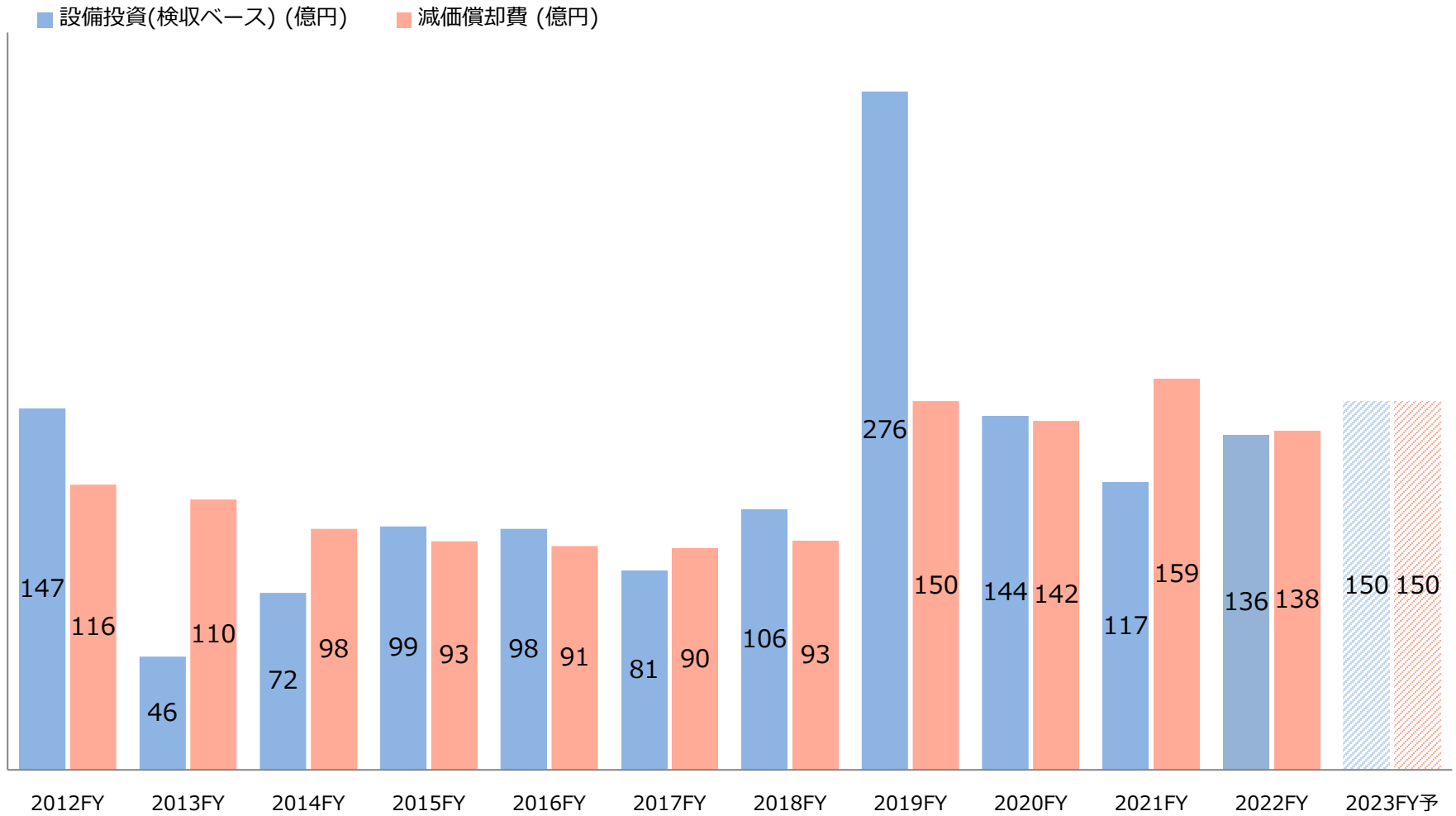
年度	ROE	ROE(のれん償却費除く)
2012FY	0.5%	0.5%
2013FY	4.1%	4.1%
2014FY	6.1%	6.1%
2015FY	6.6%	6.6%
2016FY	6.6%	6.6%
2017FY	5.6%	5.6%
2018FY	4.8%	4.8%
2019FY	-2.0%	0.3%
2020FY	-3.9%	-2.4%
2021FY (注1)	8.1%	9.9%
2022FY	10.1%	11.5%
2023FY予	6.4%	7.8%
2025FY 中期計画 (注2)	7%	8%

(注1)2021FYのOvakoおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

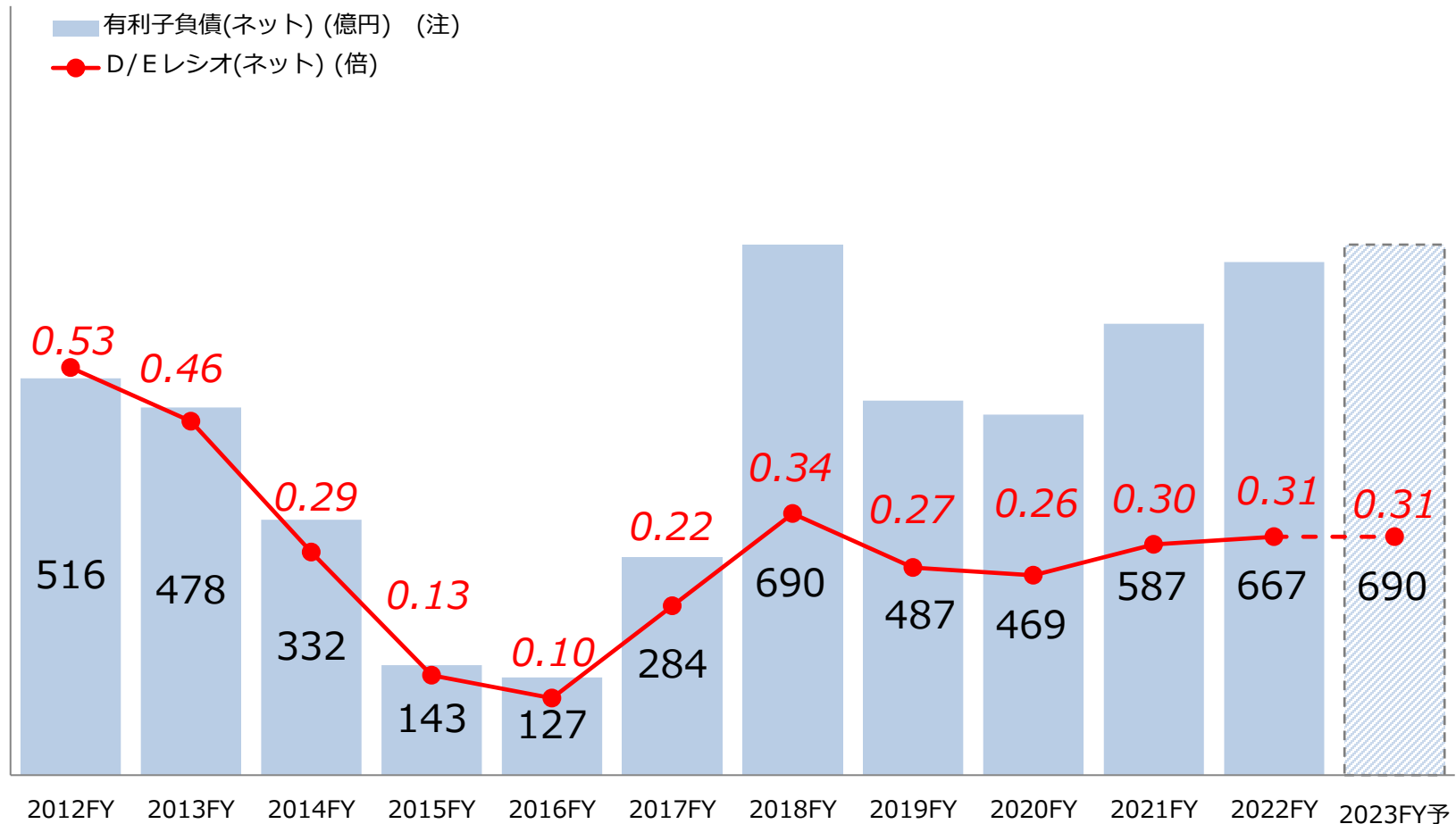
(注2)2023年7月28日公表値

(注3)SSMIは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結

# 設備投資・減価償却費の推移



# D/Eの推移



(参考)OvakoのD/Eレシオ(ネット) 1.75 0.83 0.38 0.31

(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

# 損益の詳細 (対2022FY1Q)

(単位：億円、円/株)

	2023FY1Q (A)	2022FY1Q (B)	増減 (A) - (B)	増減率 (%)
<b>売上高</b>	<b>999</b>	<b>1,041</b>	<b>-42</b>	<b>-4.0</b>
内、当社単独	480	479	+1	+0.2
内、Ovako	443	495	-52	-10.5
内、SSMI	55	50	+4	+8.7
<b>営業利益</b>	<b>55</b>	<b>88</b>	<b>-33</b>	<b>-37.4</b>
内、当社単独	3	22	-18	-85.2
内、Ovako	54	71	-17	-23.7
内、SSMI	2	▲1	+3	-
内、のれん償却費	▲8	▲7	-1	-
<b>経常利益</b>	<b>61</b>	<b>93</b>	<b>-32</b>	<b>-34.6</b>
内、当社単独	20	34	-14	-40.0
内、Ovako	52	73	-21	-28.5
内、SSMI	2	▲1	+3	-
内、のれん償却費	▲8	▲7	-1	-
<b>税後利益 (注1)</b>	<b>43</b>	<b>69</b>	<b>-26</b>	<b>-37.4</b>
<b>1株当たり税後利益</b>	<b>79.1</b>	<b>126.3</b>	<b>-47.2</b>	<b>-37.4</b>
のれん償却費を除く営業利益	63	95	-32	-33.9
のれん償却費を除く経常利益	68	100	-31	-31.5
のれん償却費を除く税後利益	51	76	-25	-33.0
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	93.4	139.4	-46.1	-33.0
<b>売上数量 (千t)</b>	<b>392</b>	<b>440</b>	<b>-48</b>	<b>-10.9</b>
内、当社単独	213	234	-21	-9.2
内、Ovako	152	177	-25	-14.1
内、SSMI	27	28	-1	-4.4

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～3月の数値

# 損益の詳細 (業績予想 2023/7/28公表 対前年度)

(単位：億円、円/株)

	23FY上期予想 (A)	23FY下期予想 (B)	2023FY予想 (C)=(A)+(B)	2022FY (D)	増減 (C)-(D)	増減率 (%)
<b>売上高</b>	<b>1,850</b>	<b>2,010</b>	<b>3,860</b>	<b>3,938</b>	<b>-78</b>	<b>-2.0</b>
内、当社単独	950	960	1,910	1,932	-22	-1.2
内、Ovako	750	870	1,620	1,711	-91	-5.3
内、SSMI	112	145	257	216	+41	+18.9
<b>営業利益</b>	<b>75</b>	<b>125</b>	<b>200</b>	<b>285</b>	<b>-85</b>	<b>-29.8</b>
内、当社単独	31	79	110	87	+23	+27.0
内、Ovako	50	53	103	214	-111	-51.8
内、SSMI	5	7	12	2	+10	+596.1
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲31	▲29	-2	-
<b>経常利益</b>	<b>80</b>	<b>120</b>	<b>200</b>	<b>289</b> ※	<b>-89</b>	<b>-30.7</b>
内、当社単独	70	80	150	102	+48	+46.9
内、Ovako	47	53	100	211	-111	-52.7
内、SSMI	3	4	7	▲2	+9	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲31	▲29	-2	-
<b>税後利益 (注1)</b>	<b>50</b>	<b>90</b>	<b>140</b>	<b>207</b>	<b>-67</b>	<b>-32.5</b>
<b>1株当たり税後利益</b>	<b>91.8</b>		<b>257.0</b>	<b>380.7</b>	<b>-123.8</b>	<b>-32.5</b>
のれん償却費を除く営業利益	91	141	231	314	-83	-26.5
のれん償却費を除く経常利益	96	136	231	318	-87	-27.3
のれん償却費を除く税後利益	65	106	171	237	-66	-27.8
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	119.3		313.8	434.4	-120.5	-27.7
<b>売上数量 (千t)</b>	<b>754</b>	<b>825</b>	<b>1,579</b>	<b>1,607</b>	<b>-28</b>	<b>-1.8</b>
内、当社単独	430	440	870	894	-24	-2.7
内、Ovako	267	318	585	608	-23	-3.8
内、SSMI	56	67	124	105	+19	+18.0

※ Ovakoの一過性影響を除くと193億円

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

# 損益の詳細 (業績予想 2023/7/28公表 対前回予想)

	今回予想(2023/7/28公表)		前回予想(2023/4/28公表)		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
	(単位: 億円、円/株)					
<b>売上高</b>	<b>1,850</b>	<b>3,860</b>	<b>1,860</b>	<b>3,940</b>	<b>-10</b>	<b>-80</b>
内、当社単独	950	1,910	940	1,940	+10	-30
内、Ovako	750	1,620	760	1,670	-10	-50
内、SSMI	112	257	120	260	-8	-3
<b>営業利益</b>	<b>75</b>	<b>200</b>	<b>62</b>	<b>200</b>	<b>+13</b>	<b>-</b>
内、当社単独	31	110	35	110	-4	-
内、Ovako	50	103	28	102	+22	+1
内、SSMI	5	12	6	13	-1	-1
内、のれん償却費	▲16	▲31	▲14	▲29	-2	-2
<b>経常利益</b>	<b>80</b>	<b>200</b>	<b>63</b>	<b>200</b>	<b>+17</b>	<b>-</b>
内、当社単独	70	150	72	150	-2	-
内、Ovako	47	100	27	100	+20	-
内、SSMI	3	7	3	7	-	-
内、のれん償却費	▲16	▲31	▲14	▲29	-2	-2
<b>税後利益 (注1)</b>	<b>50</b>	<b>140</b>	<b>40</b>	<b>140</b>	<b>+10</b>	<b>-</b>
<b>1株当たり税後利益</b>	<b>91.8</b>	<b>257.0</b>	<b>73.4</b>	<b>256.9</b>	<b>+18.4</b>	<b>+0.0</b>
のれん償却費を除く営業利益	91	231	76	229	+15	+2
のれん償却費を除く経常利益	96	231	77	229	+19	+2
のれん償却費を除く税後利益	65	171	54	169	+11	+2
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	119.3	313.8	99.1	310.2	+20.2	+3.7
<b>売上数量 (千t)</b>	<b>754</b>	<b>1,579</b>	<b>760</b>	<b>1,605</b>	<b>-6</b>	<b>-26</b>
内、当社単独	430	870	426	870	+4	-
内、Ovako	267	585	274	608	-7	-23
内、SSMI	56	124	60	127	-4	-3

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

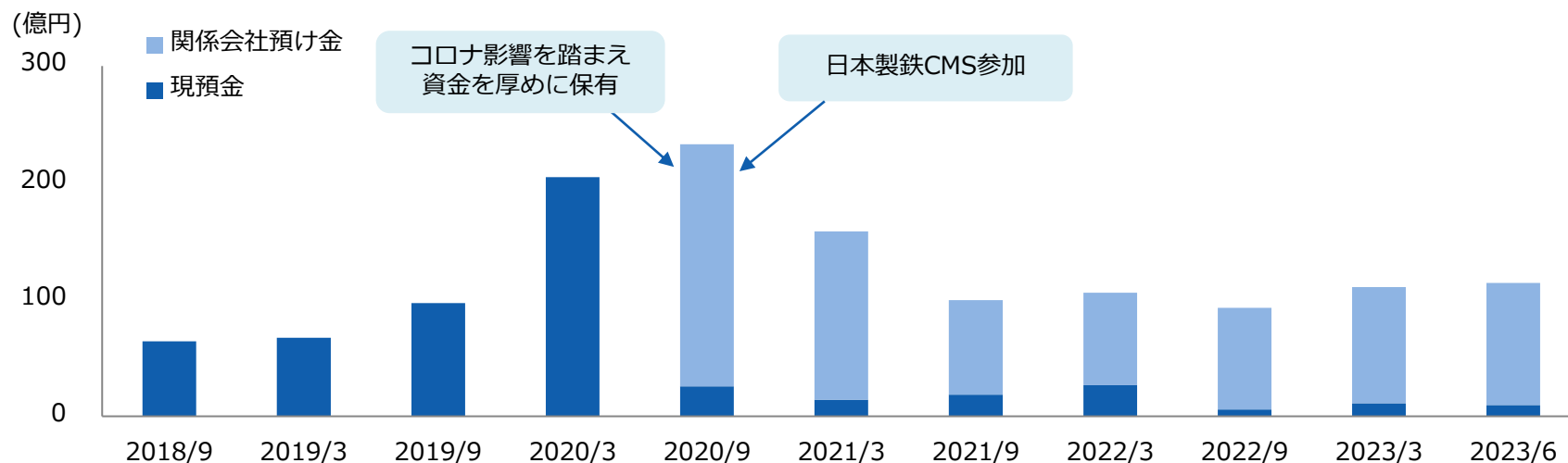
(注2)SSMI: 1月~12月の数値



# 関係会社預け金

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み。  
(資金のセーフティネットとして機能)
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

## 関係会社預け金を含む現預金等の推移(単独)



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

# SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>